移行支援資料〜 J2EE機能から Java EE 6機能への移行 ポイント〜

本書の目的
本書は Interstage Application Server のJ2EE機能を使用していたユーザーが、Java EE 6機能に移行する場合について説明します。

本書の表記について
本製品のマニュアル名称の表記について
本書では、製品マニュアル名称の記載において、マニュアル名の先頭の製品名を省略しています。また、VL11.1のマニュアルを参照しています。このため、他のVLのマニュアルでは、章節項番号が異なる場合があります。
例：移行ガイド

本書の対象製品と表記について
本書は以下の製品を対象としています。以下の製品を総称して「Interstage Application Server」と表記しています。
○ Interstage Application Server Enterprise Edition V6~V11
○ Interstage Application Server Standard-J Edition V8~V11
○ Interstage Application Server Standard Edition V6~V7
○ Interstage Application Server Plus Edition V6~V7
○ Interstage Application Server Web-J Edition V6~V8
○ Interstage Web Server V9~V10
○ Interstage Web Server Express V11
○ Interstage Business Application Server Enterprise Edition V8~V11
○ Interstage Business Application Server Standard Edition V8~V11

輸出許可・商標・著作権
輸出管理規制
本ドキュメントを非居住者に提供する場合には、経済産業大臣の許可が必要となる場合がありますので、ご注意ください。

商標
本書に記載されている商標および登録商標については、一般に各社の商標または登録商標です。

著作権
Copyright 2016 FUJITSU LIMITED
2016年8月 初版
目次

第1章  概要

1.1  用語について
1.2  実行環境の違い
1.3  構成の違い
1.4  機能の違い

第2章  移行時のポイント

2.1  IJServer/IJServerクラスタの違いについて
2.2  操作の違いについて
2.3  セキュリティ機能の違いについて
2.4  データベース連携の違いについて
2.5  サービスのアプリケーションについて
2.6  クラスローダについて
2.7  起動停止時実行クラスについて

第3章  J2EEに対応するJava EE 6の定義項目

3.1  基盤サービス
3.2  運用操作コマンド
3.3  ワークユニット
3.4  コンポーネント定義
3.5  サーバーコネクタ
3.6  クライアント
3.7  コネクタ
3.8  トランザクション
3.9  コネクタ設定
3.10  起動/停止の実行クラス
3.11  ログ
第1章 概要

ここでは、Interstage Application ServerにおけるJ2EE実行環境とJava EE 6実行環境の違いについて説明します。

### 用語について

Java EE 6機能とJ2EE機能では、用語が異なるものがあります。
Java EE 6機能では、J2EE機能で提供されていた機能と同じ機能が一般的なアプリケーションサーバで使用される名称で呼ばれている。主な用語の対応例を以下に示します。

<table>
<thead>
<tr>
<th>効果 J2EE機能での名称</th>
<th>Java EE 6機能での名称</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>アプリケーションの運用単位</td>
<td>IJServerワークユニット</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>IJServerクラスタ</td>
</tr>
<tr>
<td>業務プロセス (Java VM)</td>
<td>プロセス (特別な用語はない)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>プロセス通番で識別</td>
</tr>
<tr>
<td>起動停止で呼び出されるアプリケーション</td>
<td>起動停止時実行クラス</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ライフサイクルモジュール</td>
</tr>
<tr>
<td>データベースとの接続定義</td>
<td>JDBCデータソース</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>JDBC接続プール、JDBCリソース</td>
</tr>
<tr>
<td>異常なデータベースコネクションの再作成</td>
<td>異常時の自動再接続</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>接続検証</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 実行環境の違い

Interstage Application Serverのバージョンによって、サポート対象の規約、使用できるJavaバージョンやWebサーバを経由する運用において利用可能なWebサーバが異なります。バージョンごとの違いを以下に示します。

<table>
<thead>
<tr>
<th>製品バージョン</th>
<th>J2EE機能</th>
<th>Java EE 6機能</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>11</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>Servlet規約</td>
<td>2.4 2.4 3.0</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>JSP規約</td>
<td>1.2 2.0 2.2</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>EJB規約</td>
<td>2.0 2.1 3.1</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>Javaバージョン</td>
<td>1.3 1.4 5.0 6.0 7.0</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>Webサーバー</td>
<td>Interstage HTTP Server</td>
</tr>
</tbody>
</table>

J2EE機能の資源とJava EE 6機能の資源は異なるため、Interstageのバックアップ・リストア機能による資源の移行は行えません。このため、Java EE 6機能のWebコンテナで運用していたアプリケーションをJ2EE機能で運用するためには、Java EE 6機能のWebコンテナを作成し、そこにアプリケーションを配備し直す必要があります。なお、Interstage Application Server Standard-J Edition/Enterprise EditionではJ2EE機能のWebコンテナも提供しているため、引き続きJ2EE機能を使用することもできます。その際にはInterstageのバックアップ・リストア機能による資源の移行も可能です。
J2EE機能への移行の詳細は、「移行ガイド」および「J2EEユーザーズガイド（旧版互換）」を参照してください。

Webサーバについて
Interstage HTTP ServerとInterstage HTTP Server 2.2は资源が異なるため、バックアップ・リスア機能による资源の移行はできません。Interstage HTTP Serverで使用していた機能をInterstage HTTP Server 2.2で使用する場合は、Interstage HTTP Server 2.2をインストール後に、環境設定ファイル（httpd.conf）を直接編集して、必要な機能を設定してください。Interstage HTTP Server 2.2の主な機能の環境設定については、「Interstage HTTP Server 2.2運用ガイド」の「第3章 環境設定」を参照してください。

なお、Java EE 6機能ではGUIによる操作は行えず、またJ2EE機能とJava EE 6機能ではコマンドでの操作方法が異なります。必ずJava EE 6機能のasadminコマンドを使用してください。asadminについては、「Java EE運用ガイド（Java EE 6編）」-「Java EE 6運用コマンド」-「asadmin」を参照してください。

構成の違い
Java EE 6機能では、Webコンテナにアクセスする場合は、必ずWebサーバを経由していました。これに対し、J2EE機能では再配備を使いWebサーバを経由しない運用とWebサーバを経由する運用の2種類の構成があります。
Webサーバを経由する運用（推奨）
WebブラウザなどのクライアントからWebサーバを経由してWebコンテナへアクセスする運用形態です。クライアントとWebサーバの間に負荷分散装置を配置する場合もこの運用形態になります。HTTPプロトコル、またはHTTPSプロトコルでアクセス可能です。
J2EEからJava EE 6に移行する場合には、J2EE機能と同じ構成のWebサーバを経由する運用を推奨します。Webサーバを経由する運用とWebサーバを経由しない運用では使用できる機能が異なるからです。提供機能の違いの詳細は、「Java EE運用ガイド(Java EE 6編) - H.1 Interstage HTTP Server 2.2とJava EE 6の機能の違い」を参照してください。
なお、この構成で運用する場合には、インストール時にカスタムインストールでWebサーバ(Interstage HTTP Server 2.2)、Webサーバコネクタ(Interstage HTTP Server 2.2用)を選択してインストールする必要があります。
Webサーバを経由する場合の運用準備の詳細は、「Java EE運用ガイド(Java EE 6編) - 4.7 Webサーバを経由する場合の運用準備」を参照してください。
利用されている製品のバージョンによっては制限によりWebサーバと連携する設定でasadminコマンドが使用できない場合があります。詳細は「Java EE運用ガイド(Java EE 6編) - 8.5.3サーバ並行運用時の制限事項」を参照してください。

Webサーバを経由しない運用
Webブラウザなどのクライアントから直接Webコンテナへアクセスしたり、クライアントから負荷分散装置を経由してWebコンテナにアクセスしたりする運用形態です。HTTP/HTTPSプロトコルのみアクセスできます。

機能の違い

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>J2EE実行環境</th>
<th>Java EE 6実行環境</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サーバータイプ</td>
<td>以下の4種類から選択可能</td>
<td>以下の4種類のみ。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>- Webアプリケーションとアプリケーションを同一で運用</td>
<td>- Java EEアプリケーションとアプリケーションを同一で運用</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
- WebアプリケーションとEJBアプリケーションを別JavaVMで運用
- Webアプリケーションのみ運用
- EJBアプリケーションのみ運用

<table>
<thead>
<tr>
<th>サポート機能</th>
<th>WebアプリケーションとEJBアプリケーションを別JavaVMで運用</th>
<th>Webアプリケーションのみ運用</th>
<th>EJBアプリケーションのみ運用</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>プロセス多重度運用</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>プロセス多重度のような数値指定はありませんが、複数プロセスを一括操作するビューをサポート</td>
</tr>
<tr>
<td>デバッグ起動</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>自動再起動</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>最大処理時間監視</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>予兆監視</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Javaヒープ不足時の制御</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>メモリサービスのキー制御</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>起動停止時実行クラス</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ログ管理</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>クラスローダ</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>クラスローダのトレース</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>クラスのオートロード</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage HTTP Server</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>セッションリカバリ</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>マルチサーバ連携</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>コマンドによる運用操作</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>コマンドによる運用操作</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>複数アプリケーショソプロセスにまたがったトランザクション制御</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>複数アプリケーションでは、トランザクションサービスが連携しません。</td>
</tr>
<tr>
<td>監査証跡</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>コマンドによる運用操作</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>コマンドによる運用操作</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

Interstage HTTP Server
Microsoft(R) Internet Information Services
Sun Java System Web Server
Interstage HTTP Server 2.2
セッションリカバリ
マルチサーバ連携
クラスローダ連携
アプリによる運用操作
コマンドによる運用操作
複数アプリケーションプロセスにまたがったトランザクション制御
監査証跡
コマンドによる運用操作
コマンドによる運用操作
<table>
<thead>
<tr>
<th>テーブル</th>
<th>ポリューム</th>
<th>サポート</th>
<th>バリケード</th>
<th>データベース</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サポート</td>
<td>文字列</td>
<td>文字列</td>
<td>文字列</td>
<td>文字列</td>
</tr>
<tr>
<td>バリケード</td>
<td>文字列</td>
<td>文字列</td>
<td>文字列</td>
<td>文字列</td>
</tr>
<tr>
<td>データベース</td>
<td>文字列</td>
<td>文字列</td>
<td>文字列</td>
<td>文字列</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>富士通</th>
<th>画面パーサ連携</th>
<th>富士通</th>
<th>画面パーサ連携</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>XMLパーサ連携</td>
<td></td>
<td>XMLパーサ連携</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>アプリケーション呼び出し</td>
<td></td>
<td>アプリケーション呼び出し</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
第2章 移行時のポイント

ここでは、J2EE機能からJava EE 6機能への移行ポイントについて説明します。

2.1 IJServer/IJServerクラスタの違いについて

J2EE機能で「IJServer」または「IJServerワークユニット」と呼んでいたアプリケーションの運用単位は、Java EE 6機能では「IJServerクラスター」になります。J2EE機能のIJServerワークユニットは、業務プロセスを一括で管理するためのグループです。このため、一括での起動/停止/設定変更はできますが、プロセスごとの起動/停止などはできませんでした。

Java EE 6機能では、「IJServerワークユニット」に対応する「IJServerクラスター」に、実際に生成されるJava VMプロセスと対応する「サーバーインスタンス」を定義できます。一括での起動/停止/設定変更ができるほか、サーバーインスタンス（プロセス）ごとに起動/停止、システムプロパティの設定変更ができます。このため、きめ細かい運用操作が可能です。

「IJServerワークユニット」と「IJServerクラスター」の対応を以下に示します。

<table>
<thead>
<tr>
<th>名称</th>
<th>J2EE機能</th>
<th>Java EE 6機能</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置付け</td>
<td>業務プロセスを一括管理する論理的なグループ</td>
<td>業務プロセスを「サーバーインスタンス」と呼び、サーバーインスタンスを一括管理する論理的なグループ</td>
</tr>
<tr>
<td>プロセス多重度</td>
<td>業務プロセスの多重化は、IJServerワークユニットの「プロセス多重度」として設定する。</td>
<td>業務プロセスの多重化は、IJServerクラスターにサーバーインスタンスを複数作成する。</td>
</tr>
<tr>
<td>業務プロセスの 起動/停止</td>
<td>IJServerワークユニット単位の操作を行う。</td>
<td>IJServerクラスター単位の(一括)操作と、サーバーインスタンス単位の起動/停止が可能。</td>
</tr>
<tr>
<td>業務プロセスの 設定変更</td>
<td>IJServerワークユニット内の業務プロセスはすべて同じ設定を共有。</td>
<td>IJServerクラスター内のサーバーインスタンスはすべて同じ設定を共有することもでき、また、システムプロパティなどサーバーインスタンス単位に設定することも可能。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2.2 操作の違いについて

コマンド操作について

J2EE機能とJava EE 6機能のコマンド操作の違いを以下に示します。操作の大まかな流れはどちらも同じですが、使用するコマンド名や操作する対象が異なります。
実行環境の操作において、J2EE機能の場合は各種操作によって`isj2eeadmin`コマンド、`isstartwu/isstopwu`コマンド、`isdeployment/isundeployment`コマンドなどの使い分けが必要です。その点、Java EE 6機能の場合は、ほぼ`asadmin`コマンドのサブコマンドで操作可能です。Java EE 6機能の場合は、サーバーインスタンスの作成や必要に応じて接続プールの作成操作が必要です。

起動・停止コマンドの復帰について

J2EE機能の場合

実行環境の操作において、J2EE機能の場合は各種操作によって`isj2eeadmin`コマンド、`isstartwu/isstopwu`コマンド、`isdeployment/isundeployment`コマンドなどの使い分けが必要です。その点、Java EE 6機能の場合は、ほぼ`asadmin`コマンドのサブコマンドで操作可能です。Java EE 6機能の場合は、サーバーインスタンスの作成や必要に応じて接続プールの作成操作が必要です。

起動・停止コマンドの復帰について

Java EE 6機能の場合

実行環境の操作において、Java EE 6機能の場合は各種操作によって`asadmin`コマンドのサブコマンドで操作が可能です。Java EE 6機能の場合は、サーバーインスタンスの作成や必要に応じて接続プールの作成操作が必要です。
定義更新時の注意点

IJServerクラスタ及びサーバーインスタンスは、「中央リポジトリ」という全体の資産が格納されている領域からコピーされた、各サーバーインスタンスごとに存在するリポジトリキャッシュを参照して動作します。IJServerクラスタ、またはサーバーインスタンスを起動するとき、リポジトリの同期化処理によって、定義情報が、中央リポジトリからリポジトリキャッシュへのコピーされます。

ただし、すべてのIJServerクラスタで共通に使用するライブラリをドライバ等を共通ディレクトリに設定した場合や、ロールベースでキーストア、トラストストアを更新した場合など、中央リポジトリの資産の更新が行われた場合には、IJServerクラスタ、またはサーバーインスタンスの起動時に、同期化処理が行われないことがあります。

その場合、IJServerクラスタ、またはサーバーインスタンス停止後、手動による同期を行ってください。手動による同期化については「Java EE運用ガイド」-「2.1.4 リポジトリの同期化処理」を参照してください。

アプリケーションの定義編集について

J2EE機能では、配備後にアプリケーション定義を編集する運用でした。これに対し、Java EE 6機能では、配備前にアプリケーション定義を作成し、配備ファイルに含めて運用するため、配備後の運用が容易になります。

ただし、J2EE機能では配備後にアプリケーション定義を変更することができますが、Java EE 6機能では配備後の変更はできません。変更する場合には、変更したInterstage deployment descriptorを配備モジュールに含めて再度配備を行う必要があります。

セキュリティ機能の違いについて

ロールとログイン認証

ロールの場合は、運用操作を行うユーザーは、システム管理グループに属するユーザーまたはシステム管理者である必要があります。ログイン認証には、ロール認証とデフォルト認証のいずれかを選択できます。

Java EE 6の場合、運用操作を行うユーザーは、システム管理グループに属するユーザーまたはシステム管理者である必要があります。ログイン認証には、デフォルト認証のみ使用可能です。

機能とデフォルト認証のロールとログイン認証の差異を以下に示します。

<table>
<thead>
<tr>
<th>説明</th>
<th>ユーザリポジトリ</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
</table>
| ロール環境 | 認証 | ロール環境 | ロール認証認証時に、以下のロールから選択。
  * アダルト
  * ジュニア
| デフォルト認証 | ロール認証 | デフォルト認証認証時に、以下のロールから選択。
  * アダルト
  * ジュニア
|
LDAP認証 Interstageディレクトリサービスと連携してログイン認証を実行します。Interstageディレクトリサービスに登録されたユーザリポジトリに格納されたユーザでログイン認証を実行します。ユーザリポジトリに登録されたユーザリポジトリのロマンドの認証。以下のグループに属するユーザだけログイン可能。

| レベル | 環境 | レベルムでの認証 | レベルムに格納されたユーザでログイン認証を実行します。 | レベルムに登録されたユーザリポジトリ | Interstage管理コンソールだけ認証。以下のロールから選択。
| --- | --- | --- | --- | --- | ---
| Java EE 6 | 環境 | レベルムでの認証 | レベルムに格納されたユーザでログイン認証を実行します。 | レベルムに登録されたユーザリポジトリ | Interstage管理コンソールだけ認証。以下のロールから選択。
| 環境 | レベルムでの認証 | レベルムに格納されたユーザでログイン認証を実行します。 | レベルムに登録されたユーザリポジトリ | Interstage管理コンソールだけ認証。以下のロールから選択。

### データベース連携に関する違いについて

設定方法について

**Java EE 6機能の場合**、データベースに接続するためにDBデータソースを作成し、**ワークユーティの環境設定**において**コネクション設定**で**データソースに対するコネクションプーリング**の設定を行います。使用するデータベースに対応する**JDBCドライバ**ごとに環境設定項目が異なります。

**データベースワークユーティの環境設定**

**データベース接続プール**

データベースの接続先指定などデータベース固有の設定

**データベースリソース**

対象の**接続プール**と、リソースを使用する**ターゲット**

**データベースクラスタ**

ロックストア定義に指定するターゲットに、リソースを使用するデータベースクラスタを指定するのみ

また、使用するデータソースクラスに関わらずデフォルトではデータソースが接続をプーリングします。データソースで接続をプーリングさせたくない場合（**JDBCドライバ**の**コネクションプーリング**を使用する場合）には、接続プールの設定で**プーリング**を無効にする必要があります。

初期および最小プールサイズを設定した場合、アプリケーションから最初の接続要求を受けたときに指定された数分の接続が作成されてプーリングされます。

プールで接続がアイドル状態のままアイドルタイムアウトに指定された時間が経過した場合、その接続は破棄されます。
が、プールされた接続が「初期および最小プールサイズ」に指定した数より少なくなった場合には、その数になるまで接続が再作成されます。

トランザクション完了時のクローズ済みコネクションの扱い
トランザクションのクローズ済みコネクションをトランザクション完了時に自動でクローズします。
トランザクションの場合は自動でクローズしないため、アプリケーション側でトランザクション完了前にクローンコネクションの解放を行う必要があります。
トランザクションの解放済みがいかを確認する方法として、「リーク再要求」を有効化し、「リークタイムアウト」を設定することで、コネクションの解放済みの検知とコネクションの破棄を行えます。ただし、本機能はアプリケーション処理に対して設定時間が妥当でない場合、正常処理中にも関わらずコネクションが回収されてしまう問題が発生する可能性があります。本機能はアプリケーション開発時における仮定回避やコネクションの解放済み検知のために利用してください。

### アプリケーション 関する

**別プロセスの呼び出し**
**J2EE**機能で以下の構成図にあるような別プロセスの呼び出しに該当する呼び出しを行っていた場合、「Java EE 6」に移行するとき、呼び出し元のポートを意識した設定を行う必要があります。

Java EE 6では、別ベースクラスタ上のプロセスまたはリモートサーバのネーミングサービスに登録されたアプリケーションにアクセスする場合には、Interoperable Naming Service（以降、INS）の規則を使用して、他プロセスまたはリモートサーバのホスト名、サーバーネームのポート番号、JNDI名を指定する必要があります。
具体的には、**ファイル**の**サーバネームタグ**内の**ホスト名**、**サーバーネーム**の**ポート番号**、**JNDI名**を指定するように修正してください。以下に定義例を示します。
例）ホスト名がmyHost,ポート番号が29700,JNDI名がCartBeanの場合

```xml
<ejb-ref>
  <ejb-ref-name>ejb/MyEjb</ejb-ref-name>
  <jndi-name>corbaname:iiop:myHost:29700#CartBean</jndi-name>
</ejb-ref>
```

ただし、ホスト名とポート番号の指定は1つのみで、ロードバランスやフェイルオーバーは行われないため、別クラススタの呼び出しは非推奨です。詳細については「Java EE運用ガイド(Java EE 6編)」の「環境ネーミングコンテキスト」を参照してください。

※glassfish-web.xml,glassfish-ejbjar.xml,glassfishapplication-client.xml

EJBインスタンスの作成タイミング

J2EEはプロセス起動時にEJBインスタンスを作成していたのに対し、Java EE 6はアプリケーションの初回アクセス時に作成します。アプリケーション初回アクセス時の性能劣化が懸念されるため、性能測定を実施して確認してください。

Stateful Session Beanのキャッシュ管理

J2EEは最大サイズを超えるリクエストを受けるとエラーを返却します。
Java EE 6は最大サイズを超えるとキャッシュをパッシベートしてリクエストを受付けます。
以下の影響があります。

1. キャッシュをパッシベートするため、最大サイズを超えた際のエラーが発生しなくなります。当該エラー処理の確認が必要です。

2. 最大キャッシュサイズ（キャッシュされたインスタンスの数のデフォルト値がJ2EEとJava EE 6で異なります。デフォルト値で運用していないか確認してください。以下にそれぞれの最大キャッシュサイズのデフォルト値を記載します。

Java EE 6:
デフォルト値: 512

必要に応じて、適切な最大キャッシュサイズを設定してください。また、最大キャッシュサイズを修正する場合、ヒープサイズのチューニングも必要になります。ヒープサイズのチューニング方法については、「Python運用ガイド(Java EE 6編)」-「環境ネーミングコンテキストの仕様と賢」を参照してください。

ネームに指定するサブコンテキストの省略可否

J2EEでは、アプリケーションでネームのメソッドを実行するときにネームのサブコンテキストを引数から省略できますが、Java EE 6では必ず指定する必要があります。

アプリケーションの中で、ネームのメソッドを使用している箇所を検索してください。該当箇所について、ネームのメソッドの引数を確認してください。

修正の必要はありません。
環境ネーミングコンテキストを使用する場合 
サブコンテキストが省略されていないか確認してください。サブコンテキストが省略されている場合、「Java EE運用ガイド」(編0) - 「環境ネーミングコンテキスト」および『環境ネーミングコンテキストで参照可能なオブジェクト』にある「JNDIのlookupメソッドに指定する名前」の記載を基に修正してください。

オブジェクトリファレンスのキャッシュ
オブジェクトリファレンスのキャッシュは、メソッド実行時に取得されるオブジェクトリファレンスがコンテナ内でキャッシュされる機能です。アプリケーションでリクエストの度に実行している場合、メソッドはコンテナ内でキャッシュされているオブジェクトリファレンスが返却されます。Java EEではデフォルトで動作しますが、Java EE 6ではキャッシュ機能があります。

キャッシュ機能がないことで、性能劣化が懸念されるため、性能試験を実施して問題がないことを確認してください。
システムの構成上、リクエストの度に実行する必要がないのであれば、アプリケーション内でオブジェクトリファレンスをキャッシュすることを検討してください。

IIOP通信について
IIOP通信で使用するポートについて
J2EE機能では、IIOP通信は共通のサービスがリクエストを受信します。このため、サーバアプリケーションが複数動作している場合も、共通のポート番号2002がIIOP通信に使用されます。一方、Java EE 6機能の場合は、クラスタのインスタンスごとにIIOP通信ポートを使用します。このため、複数のポート番号を使用します。Java EE 6では、概念上のIIOP通信受信部を「IIOPリスナー」と呼んでいます。

同一アプリの多重実行
EJBクライアント : 8002
EJBサーバー 1: IJS01
ポート番号: 8002
リクエストをディスパッチ

Java EE 6機能
クラスタ 1: IJ01 インスタンス: ins11
クラスタ 2: IJ02 インスタンス: ins21
クラスタ1: 29700
クラスタ2: 29701
クラスター3: 29702
ポート番号: 29700, 29701, 29702

接続の待機時間監視機能について
この機能では、接続に失敗した場合、リトライする待機時間監視機能がありますが、Java EEには存在しない機能になります。
この機能では、タイムアウトの判定にコネクションの接続処理時間を含めることはできません。また、リトライを実施しないよう設定することはできません。必ず1回はリトライを実施します。
クライアントからの最大リクエスト数
J2EEでは、CORBAサービスが受付可能なリクエストの最大数を指定します。
Java EE 6では、受付可能なリクエストの最大数を指定する機能はありません。最大スレッド数は、スレッドプールで指定できますが、リクエストの最大数×2とする必要があります。Java EE 7では、スレッドプールには、リクエストの最大数を指定します。

アプリケーションについて

リクエストへのレスポンスに設定するヘッダ数の制限
J2EEではリクエストへのレスポンスに設定するヘッダ数には制限がありますが、Java EE 6では行までとなります。
上限値については、「レスポンスヘッダ数の上限値」の設定にて変更することが可能です。詳細は「Java EE運用ガイド（Java EE 6編）」-「ネットワーク設定の定義項目」-「レスポンスヘッダ数の上限値」を参照してください。

リクエストパラメータ数の制限
J2EEではリクエストパラメータ数は特に制限されませんでしたが、Java EE 6では10000個に制限されるようになりました。なお、本制限値はネットワーク設定の定義項目の「HTTPリクエストパラメータ数の最大値」プロパティで変更可能です。

キープアライブのタイムアウト値について
マニュアル上キープアライブタイムアウトとして記載されている以下の定義項目はキープアライブ以外のタイムアウト値として利用されます。

本定義項目は以下の3つのタイムアウトとして設定されます。
- キープアライブ：Webコンテナがレスポンスを返却後、次のリクエストが来るまでの間キープアライブ接続を維持する時間
- スレッド接続：Webコンテナでスレッド接続後、リクエストがスレッドプールのキューに格納されるまで接続を維持する時間
- スレッド接続キュー：Webコンテナでスレッドプールのキューに格納後、リクエストがスレッドで処理を開始されるまで接続を維持する時間

キープアライブを無効にするとき、キープアライブのタイムアウト値を明に設定する必要はなくデフォルト値のまま問題ありません。

ファイルを読み込むエンコーディング
J2EEではJSP1.2に従い、JSPファイルを読み込むエンコーディングは、コンパイル単位でした。include元のJSPファイルも、include元とおなじエンコーディングで読み込まれます。
Java EE 6ではJSP2.0に従い、JSPファイルを読み込むエンコーディングは、ファイル単位となります。include元のJSPファイルを読み込むエンコーディングは、include元のJSPファイルを読み込むエンコーディングの影響を受けません。（デフォルトISO-8859-1）

アプリケーションの非互換について
他、アプリケーションの非互換については「移行ガイド」-「第7章 J2EEからJava EEへの移行」の「アプリケーション」と「コンテナ」を参照願います。
Webサービスのアプリケーションについて

J2EEのInterstage Webサービスでは、アプリケーションはWeb Services for J2EE 1.1およびJAX-RPC 1.1に従います。Java EE 6のWebサービスでは、アプリケーションはWeb Services for Java EE 1.3およびJAX-WSに従います。JAX-WSは、JAX-RPCの後継という位置付けですが、JAX-RPCに対する下位互換性はありません。移行には、アプリケーションの変更が必要です。

J2EEのInterstage Webサービスのアプリケーション（JAX-RPC仕様による実装）から、Java EE 6のWebサービスのアプリケーション（JAX-WS仕様による実装）への移行方法については「移行ガイド」-「第2章 J2EEからJava EEへの移行」の「アプリケーションのJava EEのWebサービスへの移行方法」を参考にしてください。

サーバ機能の作成

以下にJ2EEとJava EE 6におけるInterstage Webサービスのサーバ機能の作成の概要を示します。Java EE 6機能では、エンドポイントの実装クラスのみでWebサービスアプリケーションが作成できます。

クライアント機能の作成

以下にJ2EEとJava EE 6におけるInterstage Webサービスのクライアント機能の作成の概要を示します。
クラスローダについて

すべてのIJServerで共通のクラスを指定する方法

J2EE機能では、すべてのIJServerワークユニットで共通のクラスを指定するためにJ2EEプロパティのクラスパスを設定しました。Java EE 6機能のIJServerクラスタを利用する場合は、共通ディレクトリに設定してください。共通ディレクトリの詳細は、「Java EE運用ガイド(Java EE 6編)」の「Interstage Java EE 6で使用するクラスの設定について」を参照してください。

IJServer内で共通のクラスを指定する方法

J2EE機能では、IJServerワークユニット内で共通のクラスを指定するため以下の方法を提供していました。

- ワークユニットのクラスパスに設定する方法
- IJServerディレクトリ配下のSharedディレクトリに設定する方法
- アプリケーション固有ライブラリパスに設定する方法
- IJServerのextディレクトリに設定する方法

Java EE 6機能では、上記すべての設定項目を実装していません。代替方法を下表に示します。

<table>
<thead>
<tr>
<th>設定方法</th>
<th>IJServer機能</th>
<th>注意事項</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ワークユニットのクラスパスに設定する方法</td>
<td>クラスローダ</td>
<td>クラスパスのサフィックス:ワークユニットのクラスパスで指定したライブラリはアプリケーションのロードの後にロードされましたが、代替方法ではアプリケーションのロードよりも前にロードされます。</td>
</tr>
<tr>
<td>IJServerディレクトリ配下のSharedディレクトリに設定する方法</td>
<td>クラスローダ</td>
<td>アプリケーションライブラリ固有クラスパスはクラスローダワークユニット内のすべてのアプリケーションで有効になります。代替方法では配備したアプリケーションだけ有効となります。</td>
</tr>
<tr>
<td>アプリケーション固有ライブラリパスに設定する方法</td>
<td>クラスローダ</td>
<td>アプリケーションライブラリ固有クラスパスを変更する場合、設定上の同名モジュールを置き換えるか、再配備が必要です。</td>
</tr>
<tr>
<td>IJServerのextディレクトリに設定する方法</td>
<td>システムクラスローダ</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
クラスローダの検索順番の変更の可否

J2EE機能では、下図で表すようにクラスローダの検索順番の変更が可能でした。

この機能の仕様は下表のとおりです。

<table>
<thead>
<tr>
<th>操作内容</th>
<th>仕様</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ejb-jarファイルからWARファイルへの参照</td>
<td>親が先、親が後のどちらも不可</td>
</tr>
<tr>
<td>ファイル内の複数モジュールで同パッケージ、同一クラス名の使用</td>
<td>親が先、親が後のどちらも可</td>
</tr>
<tr>
<td>アプリと他モジュール同パッケージでの連携</td>
<td>親が先、親が後のどちらも可</td>
</tr>
</tbody>
</table>

Java EE 6機能では、「WEBクラスローダの委譲モデルの変更」を利用します。

この機能の仕様は下表のとおりです。

<table>
<thead>
<tr>
<th>操作内容</th>
<th>仕様</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ejb-jarファイルからWEBファイルへの参照</td>
<td>「親クラスローダへの委譲を先にする」で可</td>
</tr>
<tr>
<td>ファイル内の複数モジュールで同パッケージ、同一クラス名の使用</td>
<td>「親クラスローダへの委譲を後にする」で可</td>
</tr>
<tr>
<td>アプリと他モジュール同パッケージでの連携</td>
<td>親が先、親が後のどちらも可</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注）WEBモジュール内での複数の設定モジュールで同一パッケージ、同一クラス名を利用することは一般的ではありません。同名を使用したい場合は、他のモジュールに配布することで実現できます。

2.10 起動停止時実行クラスについて

「起動停止時実行クラス」は、J2EE機能では「ライフサイクルモジュール」で実現します。呼び出しイベントが増えたためので、より柔軟な運用が可能です。

「起動停止時実行クラス」と「ライフサイクルモジュール」の対応を以下に示します。
<table>
<thead>
<tr>
<th>名称</th>
<th>起動停止時実行クラス</th>
<th>ライフサイクルモジュール</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>実装クラスの条件</td>
<td>mainメソッドが実装され、コマンドラインから実行可能なpublicクラスであること。mainメソッド中に必要な処理を実装。</td>
<td>LifecycleListenerインタフェースを実装したクラスであること。handleEventメソッド中に必要な処理を実装。</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントの種類</td>
<td>起動時</td>
<td>停止時</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>① リクエスト受付開始前</td>
<td>① リクエスト受付開始後</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>コンテナの起動前 (INIT_EVENT)</td>
<td>アプリケーションのロード前 / 初期化前 (INIT_EVENT)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>リクエスト受付開始後 (STARTUP_EVENT)</td>
<td>アプリケーションのロード後 / 初期化後 (STARTUP_EVENT)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>コンテナの停止後 (TERMINATION_EVENT)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>クライアントからのリクエスト受付停止後 (SHUTDOWN_EVENT)</td>
<td>ライフサイクルモジュール作成時に指定したプロパティを取得可能</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>コンテナ停止後 (SHUTDOWN_EVENT)</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>①の利用</td>
<td>可能</td>
<td>可能</td>
</tr>
<tr>
<td>ただし、利用可能なリソースやタイミングに条件有り</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>引数の受渡し</td>
<td>mainメソッドの引数に、実行クラスの定義時に指定した値を受け渡すことが可能</td>
<td>Lifecycleメソッドの引数のライフサイクルモジュール作成時に指定したプロパティを取得可能</td>
</tr>
<tr>
<td>登録方法</td>
<td>実行クラスの設定</td>
<td>ライフサイクルモジュールの作成</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>クラスパスの設定</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
第3章 J2EEに対応するJava EE 6の定義項目

ここでは、J2EE機能に対応するJava EE 6機能の定義項目について説明します。

### 3.1 基盤サービス

<table>
<thead>
<tr>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>Java EE 6定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>RMIレジストリへの要求を受け付けるポート番号</td>
<td>isjmx.xmlファイルのportタグのrmi属性</td>
<td>RMIレジストリ宛のポート番号</td>
<td>isadminコマンドで操作できる定義項目のserver.admin-service.jmx-connector.system.port</td>
<td>コンネクタのRMIレジストリのポート番号です。Java EE 6機能の場合、本定義に相当する定義は存在しません。</td>
</tr>
<tr>
<td>SSL通信(HTTPS)で要求を受け付けるポート番号</td>
<td>isjmx.xmlファイルのportタグのhttps属性</td>
<td>运用管理用リスナーのポート番号</td>
<td>asadminコマンドで操作できる定義項目のserver.network-config.network-listeners.network-listener.admin-listener.port</td>
<td>HTTPS経由で運用操作要求を受け付けるためのポート番号です。</td>
</tr>
<tr>
<td>RMI通信で要求を受け付けるポート番号</td>
<td>isjmx.xmlファイルのportタグのrmiinvoke属性</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>Java EE 6機能の場合、本定義に相当する定義は存在しません。</td>
</tr>
<tr>
<td>JDK/JREのインストールパス</td>
<td>isjmx.xmlファイルのserverタグのjava.home属性</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>サービスで使用するJDKです。J2EE機能では、JDKまたはJREのインストールパスを指定しますが、Java EE 6ではJDKのバージョンを指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>javaプロセスに指定するオプション情報</td>
<td>isjmx.xmlファイルのserverタグのoptions属性</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>サービスで使用するオプション情報です。</td>
</tr>
<tr>
<td>マシンの登録数の上限値</td>
<td>isjmx.xmlファイルのregistryタグのmax属性</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>サービスで使用するマシンのオプション情報です。</td>
</tr>
<tr>
<td>通信のタイムアウト時間</td>
<td>isjmx.xmlファイルのtimeoutタグのrmi属性</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>Java EE 6機能の場合、本定義に相当する定義は存在しません。</td>
</tr>
<tr>
<td>通信(HTTPS)のタイムアウト時間</td>
<td>isjmx.xmlファイルのtimeoutタグのhttps属性</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>Java EE 6機能の場合、本定義に相当する定義は存在しません。</td>
</tr>
<tr>
<td>他のサーバとの通信を行う際に使用するアドレス</td>
<td>isjmx.xmlファイルの主机タグのhost属性</td>
<td>アドレス</td>
<td>isadminコマンドで操作できる定義項目のserver.admin-service.jmx-connector.system.addr</td>
<td>他のサーバとの通信を行う際に使用するIPアドレスです。複数のアドレスを持っているサーバで、システムの運用管理に使用するアドレス、業務で使用するアドレスを分ける場合などに指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>内部サービスのログインログのファイルサイズの上限値</td>
<td>isjmx.xmlファイルのloginlogタグのmax属性</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>ログイン要求を記録するログインログのログファイルサイズの上限値です。Java EE 6では設定する必要はありません。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
### 運用操作コマンド

#### ■ Interstage統合コマンド

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>Java EE 6機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Interstageの起動</td>
<td>isstart</td>
<td>PCMIサービスの起動</td>
<td>net start &quot;Interstage PCMI(isje6)&quot;</td>
<td>[PCMIインスタンスディレクトリ]/FJSVpcmi start</td>
<td>Interstageの起動時の出口機能を利用することでInterstage Java EE DAS サービス/サーバーインスタンスを自動的に起動することができます。</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstageの停止</td>
<td>isstop</td>
<td>PCMIサービスの停止</td>
<td>net stop &quot;Interstage PCMI(isje6)&quot;</td>
<td>[PCMIインスタンスディレクトリ]/FJSVpcmi stop</td>
<td>Interstageの停止時の出口機能を利用することでInterstage Java EE DAS サービス/サーバーインスタンスを自動的に停止することができます。</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstageの動作状態表示</td>
<td>isstat</td>
<td>PCMIサービスの動作状態表示</td>
<td>pcmistat</td>
<td></td>
<td>Interstageの動作状態を表示します。</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstageの初期化</td>
<td>isinit</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td>初期化が必要な場合は再インストールを実施してください。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### ■ Interstage管理コンソールコマンド

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>Java EE 6機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールの起動</td>
<td>ismngconsolestart</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td>サービスの起動時/停止時/起動状態表示時に必要となるコマンド。</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールの停止</td>
<td>ismngconsolestop</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### ■ Interstage JMXサービス運用コマンド

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>Java EE 6機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Interstage JMXサービスの起動</td>
<td>isjmxstart</td>
<td>Interstage Java EE DASサービスの起動</td>
<td>asadmin start-domain</td>
<td></td>
<td>Interstage Java EE DASサービスを起動します。</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage JMXサービスの停止</td>
<td>isjmxstop</td>
<td>Interstage Java EE DASサービスの停止</td>
<td>asadmin stop-domain</td>
<td></td>
<td>Interstage Java EE DASサービスを停止します。</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage JMXサービスの状態表示</td>
<td>isjmxstat</td>
<td>Interstage Java EE DASサービスの動作状態を表示</td>
<td>asadmin list-domains</td>
<td></td>
<td>Interstage Java EE DASサービスの動作状態を表示します。</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage JMXサービスの定義操作</td>
<td>isjmxchangedef</td>
<td>Interstage Java EE DASサービスのJMXコネクタのアドレス変更</td>
<td>asadminコマンドで操作できる定義項目のサーバーとの通信を行う際のIPアドレスを指定します。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
運用操作時に利用するユーザリポジトリの切替 | 運用管理機能が利用するレルムの変更 | 22 | 現在使用しているユーザリポジトリの表示 | 運用管理機能が利用するレルムの表示 | 運用管理機能が現在利用しているレルムの種別を表示します。

### ウェークユニット管理コマンド

<table>
<thead>
<tr>
<th>ステーディ機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>ステーディ機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サーバーステーディの起動</td>
<td>[説明]</td>
<td>サーバーステーディの起動</td>
<td>[説明]</td>
<td>[説明]</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバーステーディの停止</td>
<td>[説明]</td>
<td>サーバーステーディの停止</td>
<td>[説明]</td>
<td>[説明]</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバーステーディの一覧表示</td>
<td>[説明]</td>
<td>サーバーステーディの一覧表示</td>
<td>[説明]</td>
<td>[説明]</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### J2EE運用コマンド

<table>
<thead>
<tr>
<th>ステーディ機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>ステーディ機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>J2EEの定義更新</td>
<td>定義更新</td>
<td>J2EEの定義更新</td>
<td>定義更新</td>
<td>J2EEの定義更新を行います。</td>
</tr>
<tr>
<td>ログ採取の開始/停止、ログ状態の表示</td>
<td>[説明]</td>
<td>ログ採取の開始/停止、ログ状態の表示</td>
<td>[説明]</td>
<td>[説明]</td>
</tr>
<tr>
<td>アプリケーションの配備</td>
<td>アプリケーションの配備</td>
<td>アプリケーションの配備</td>
<td>アプリケーションの配備</td>
<td>アプリケーションの配備を行います。</td>
</tr>
<tr>
<td>アプリケーションの一覧表示</td>
<td>アプリケーションの一覧表示</td>
<td>アプリケーションの一覧表示</td>
<td>アプリケーションの一覧表示</td>
<td>アプリケーションの一覧を表示します。</td>
</tr>
<tr>
<td>事前コンパイル</td>
<td>事前コンパイル</td>
<td>事前コンパイル</td>
<td>事前コンパイル</td>
<td>事前コンパイルはサポートされていません。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
### IJServerのチューニング

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サーバコネクタにおけるリクエストの振り分け操作</td>
<td>-</td>
<td>プールされたコネクションを破棄する機能はサポートされません。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバコネクタにおけるリクエスト振り分け状態の表示</td>
<td>-</td>
<td>Java EE 6ではサーバコネクタにおけるリクエストの振り分け状態の表示は提供していません。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバコネクタの故障監視機能における振り分け先状態の表示</td>
<td>-</td>
<td>Java EE 6ではサーバコネクタの故障監視機能における振り分け先状態の表示は提供していません。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### Webサーバコネクタにおけるリクエストの振り分け操作

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ijsdispatchcont</td>
<td>Java EE 6ではWebサーバコネクタにおけるリクエストの振り分け操作は提供していません。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ijsprintdispatchcont</td>
<td>Java EE 6ではWebサーバコネクタにおけるリクエストの振り分け状態の表示は提供していません。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>svmondspstat</td>
<td>Java EE 6ではWebサーバコネクタの故障監視機能における振り分け先状態の表示は提供していません。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### EJBサービス運用コマンド

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
</table>
| Enterprise Bean定義情報の移出 | ejbdefexport | Interstage deployment descriptorファイルの参照。
ejbdefexportコマンドとejbdefimportコマンドで設定した各種設定は、Interstage deployment descriptorファイルに定義してモジュールに格納して配備することで有効になります。各種設定の詳細は「2.14 EJBアプリケーション」を参照してください。 |
| Enterprise Bean定義情報の移入 | ejbdefimport | Interstage deployment descriptorファイルの参照。
jejdefexportコマンドとjejdefimportコマンドで設定した各種設定は、Interstage deployment descriptorファイルに定義してモジュールに格納して配備することで有効になります。各種設定の詳細は「2.14 EJBアプリケーション」を参照してください。 |

### Webサービス開発コマンド

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
</table>
| サービスエンドポイントインターフェースからWSDLを生成 | iswsgen wsdl | サービスエンドポイントからWSDLを生成。
WSDLファイルは、Webサービスサーバアプリケーションの配備により、自動生成されるため、コマンドにより生成する必要はありません。 |
| WSDLファイルから、Webサービスサーバアプリケーションの開発に必要なファイル等を生成 | iswsgen server | WSDLファイルから、Webサービスサーバアプリケーションの開発に必要なファイル等を生成。
Java EE 6のWebサービスへの移行にあたり、Javaのプログラムから作成していたくことを推奨します。やむを得ずインタフェースを変更できない場合に使用します。 |
| WSDLファイルから、Webサービスクライアント開発に必要なファイルを生成 | iswsgen client | WSDLファイルから、Webサービスクライアント開発に必要なファイルを生成。
ijwsimport |
<table>
<thead>
<tr>
<th>生生成するファイルの出力先</th>
<th>最終生成物の生成・格納先</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>`iswsgen {wsdl</td>
<td>server</td>
</tr>
<tr>
<td>または `iswsgen {wsdl</td>
<td>server</td>
</tr>
<tr>
<td>ネームスペース名と</td>
<td>バッケージ名指定</td>
</tr>
<tr>
<td>バッケージ名のマッピング定義</td>
<td>または `iswsgen {wsdl</td>
</tr>
<tr>
<td>または `iswsgen {wsdl</td>
<td>server</td>
</tr>
<tr>
<td>コマンド処理時間のタイムアウト時間</td>
<td>タイムアウト時間は指定できません。</td>
</tr>
<tr>
<td>`iswsgen {server</td>
<td>client} -timeout`</td>
</tr>
<tr>
<td>リモートのリソース参照時のプロキシのホスト名</td>
<td>または `iswsgen {server</td>
</tr>
<tr>
<td>リモートのリソース参照時のプロキシのポート番号</td>
<td>または `iswsgen {server</td>
</tr>
<tr>
<td>リモートのリソース参照時のプロキシのユーザ名</td>
<td>または `iswsgen {server</td>
</tr>
<tr>
<td>リモートのリソース参照時のプロキシのパスワード</td>
<td>または `iswsgen {server</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 画面内のサブコマンドの固有オプション

<table>
<thead>
<tr>
<th>Java EE 6機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Java EE 6機能名</td>
<td>定義方法</td>
<td>説明</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>Java EE 6機能名</th>
<th>定義方法</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Java EE 6機能名</td>
<td>定義方法</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>内のネームスペース名から対応する生成物のパッケージ名への対応定義</th>
<th>バッケージ名指定</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>`iswsgen {server</td>
<td>client} -NStoPkg &lt;ネームスペース名&gt;=&lt;パッケージ名&gt;`</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### オプションの説明

- `iswsgen {wsdl|server|client} -h` 生成するファイルの出力先
- `iswsgen {wsdl|server|client} -output <パス>` 生成するファイルの出力先
- `iswsgen {wsdl|server|client} -PkgNSmappingFile <プロパティファイル>` 生成するファイルの出力先
- `iswsgen {server|client} -timeout` 生成するファイルの出力先
- `iswsgen {server|client} -proxyHost <ホスト名>` 生成するファイルの出力先
- `iswsgen {server|client} -proxyPort <ポート番号>` 生成するファイルの出力先
- `iswsgen {server|client} -proxyUser <ユーザ名>` 生成するファイルの出力先
- `iswsgen {server|client} -proxyPassword <パスワード>` 生成するファイルの出力先
- `iswsgen {server|client} -NStoPkg <ネームスペース名>=<パッケージ名>` 生成するファイルの出力先
- `iswsgen {server|client} -n <ネームスペース名>=<パッケージ名>` 生成するファイルの出力先
ス名 >= パッケージ名 きます。

作成する Webサービスアプリケーションのタイプ

作成する Webサービスアプリケーションのタイプ

iswsgen server -module {web|ejb}

-WSDLファイル名_mapping.xmlファイルは不要のため、該当オプションはありません。

■iswsgen clientサブコマンドの固有オプション

WSDL内のネームスペース名から対応する パッケージ名への対応定義

iswsgen client -NStoPkg <ネームスペース名>=<パッケージ名>
または、
iswsgen client -n <ネームスペース名>=<パッケージ名>

パッケージ名指定 ijwsimport -p pkg

ネームスペースごとにパッケージ名を指定することはできませんが、単一のパッケージを指定することはできます

■JMS運用コマンド

ConnectionFactory定義の登録

jmsmkfact JMS接続ファクトリの作成

asadmin create-jms-resourceサブコマンド

JMS接続ファクトリまたは JMS送信先リソースを作成します。

ConnectionFactory定義の更新

jmsmkfact -o JMS接続ファクトリの更新

asadmin setサブコマンド

JMS接続ファクトリの定義を更新します。

Java EE 6では、asadmin setサブコマンドにより、以下の定義項目を更新します。

resources.connector-connection-pool.[JNDI名]
resources.connector-resource.[JNDI名]

ConnectionFactory定義の一覧表示

jmsinfofact JMS接続ファクトリの一覧取得

asadmin list-jms-resourcesサブコマンド

JMS接続ファクトリまたは JMS送信先リソース一覧を取得します。

Destination定義の登録

jmsmkdst JMS送信先リソースの作成

asadmin create-jms-resourceサブコマンド

JMS接続ファクトリまたは JMS送信先リソースを作成します。

Destination定義の更新

jmsmkdst -o JMS送信先リソースの更新

asadmin setサブコマンド

JMS接続ファクトリの定義を更新します。

Java EE 6では、asadmin setサブコマンドにより、以下の定義項目を更新します。

resources.admin-object-resource.[JNDI名]

Destination定義の削除

jmsrmdst JMS送信先リソースの削除

asadmin delete-jms-resourceサブコマンド

JMS接続ファクトリまたは JMS送信先リソースを削除します。

Destination定義の一覧

jmsinfodst JMS送信先リソースの一覧取得

asadmin list-jms-resourcesサブコマンド

JMS接続ファクトリまたは JMS送信先リソース一覧を取得します。
表示 即席の削除
取得 永続サブスクリプションの削除
マンド 永続サブスクリプションを削除します。

取得 即席の一覧表示
マンド 永続サブスクリプションの一覧表示
トピックが管理している永続サブスクリプションの一覧を表示します。

セキュリティモードの設定/表示
セキュリティ権限設定/表示
マンド セキュリティモードを設定するコマンドは存在しません。
トピックで設定したセキュリティモードも設定されます。

クラスタ環境の構築/表示/削除
マンド クラスタ環境を構築するコマンドは存在しません。

■ Servletサービス運用コマンド

<table>
<thead>
<tr>
<th>J2EE機能名/定義名</th>
<th>J2EE定義方法</th>
<th>Java EE 6機能名/定義名</th>
<th>Java EE 6定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Session Registry Server管理コマンド</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>クラスタ環境を構築するコマンドは存在しません。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

■ クラスタサービス運用コマンド

<table>
<thead>
<tr>
<th>J2EE機能名/定義名</th>
<th>J2EE定義方法</th>
<th>Java EE 6機能名/定義名</th>
<th>Java EE 6定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>インターステージの稼働状態確認</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>クラスタサービス連携はサポートされていません。</td>
</tr>
<tr>
<td>事前起動しているインターステージの活性化</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>クラスタサービス連携はサポートされていません。</td>
</tr>
<tr>
<td>事前起動しているワークユニットの活性化</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>クラスタサービス連携はサポートされていません。</td>
</tr>
<tr>
<td>インターステージの事前起動</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>クラスタサービス連携はサポートされていません。</td>
</tr>
<tr>
<td>ワークユニットの事前起動</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>クラスタサービス連携はサポートされていません。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

■ バックアップコマンド

<table>
<thead>
<tr>
<th>J2EE機能名/定義名</th>
<th>J2EE定義方法</th>
<th>Java EE 6機能名/定義名</th>
<th>Java EE 6定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
</table>
| IJServerの資源のバックアップ・移出 | - | - | - | バックアップ対象サービスの資産をバックアップしてください。
バックアップ手順については「Java EE運用ガイド(Java EE 6編)」の「資源のバックアップとリストア」を参照してください。 |
い。

ijsrestore は IJServer クラスタの資源のリストア・移入のためのツールです。ijsrestore は isprintbackuprsc コマンドで表示されたバックアップ対象サービスの資産をリストアしてください。

リストア手順については「Java EE運用ガイド(Java EE 6編)」の「資源のバックアップとリストア」を参照してください。

保守情報採取コマンド

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一括情報採取ツール</td>
<td>iscollectinfo</td>
<td>Interstageの調査資料を採取します。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

3.3 J2EEプロパティ

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>クラスパス</td>
<td>クラスパス</td>
<td>クラスパスが以下のタグで指定します。クラスパスの管理のシステムクラスパス</td>
<td>クラスパスが以下のタグで指定します。クラスパスの管理のシステムクラスパス</td>
</tr>
<tr>
<td>パス</td>
<td>パス</td>
<td>パスが以下のタグで指定します。パスの管理のシステムパス</td>
<td>パスが以下のタグで指定します。パスの管理のシステムパス</td>
</tr>
<tr>
<td>ライブラリパス</td>
<td>ライブラリパス</td>
<td>ライブラリパスが以下のタグで指定します。ライブラリパスの管理のシステムライブラリパス</td>
<td>ライブラリパスが以下のタグで指定します。ライブラリパスの管理のシステムライブラリパス</td>
</tr>
<tr>
<td>オプション</td>
<td>オプション</td>
<td>オプションが以下のタグで指定します。オプションの管理のシステムオプション</td>
<td>オプションが以下のタグで指定します。オプションの管理のシステムオプション</td>
</tr>
<tr>
<td>共通ディレクトリ</td>
<td>共通ディレクトリ</td>
<td>インストール時に設定できます。</td>
<td>インストール時に設定できます。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
### ワークユニット

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ディレクトリ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### サーバーインスタンス
- サーバーインスタンスは、アプリケーションプロセスの数を指定します。
- Java EE では、サーバーインスタンス名を指定して追加・削除を行います。

#### クラスパス
- クラスパスのサフィックス
- クラスパスは、アプリケーションが動作時に使用するクラスパスを指定します。

#### アプリケーション固有ライブラリパス
- ライブラリ
- アプリケーションのライブラリを変更する場合、設置先の同名モジュールを置き換えるか、再配備が必要です。

#### パス
- アプリケーションが動作時に使用するパスを指定します。

#### IJServerタイプ
- IJServerタイプは、IJServerクラスタのタイプを指定します。
- Java EE では、IJServerクラスタのタイプを指定することはできません。
- アプリケーションとアプリケーションを同一JavaVMで運用する場合、IJServerタイプを指定します。

#### プロセス多重度
- プロセス多重度は、アプリケーションの複数のサーバーインスタンスを指定します。
- Java EE では、プロセス多重度でプロセスの数を指定しますが、Java EE ではサーバーインスタンス名を指定して追加・削除を行います。

#### クラスパス
- クラスパスのサフィックス
- クラスパスは、アプリケーションが動作時に使用するクラスパスを指定します。

#### アプリケーション固有ライブラリパス
- ライブラリ
- アプリケーションのライブラリを変更する場合、設置先の同名モジュールを置き換えるか、再配備が必要です。

#### パス
- アプリケーションが動作時に使用するパスを指定します。
- アプリケーションのパスは、アプリケーションのパスを指定します。
<table>
<thead>
<tr>
<th>タイプ</th>
<th>管理コンソールのワークユニット設定タグ</th>
<th>アプリケーション設定タグ</th>
<th>動時のシステム環境変数で指定します。</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ライブラリパス</td>
<td>Interstage管理コンソールのワークユニット設定</td>
<td>パス</td>
<td>アプリケーションが動作時に使用するライブラリパスを指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>Interstage管理コンソールのワークユニット設定</td>
<td>ライブラリパス</td>
<td>Java EE 6では、Interstage Java EE Node Agentサービス起動時のシステムの環境変数で指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>Interstage管理コンソールのワークユニット設定</td>
<td>環境変数</td>
<td>アプリケーションが動作時に使用する環境変数を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>Interstage管理コンソールのワークユニット設定</td>
<td>バージョン</td>
<td>Javaバージョンを選択します。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>Interstage管理コンソールのワークユニット設定</td>
<td>オプション</td>
<td>チューニング設定タグを指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>Interstage管理コンソールのワークユニット設定</td>
<td>ヒープ領域不足時制御</td>
<td>Javaヒープ領域不足時の制御</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>Interstage管理コンソールのワークユニット設定</td>
<td>ワークユニット自動起動</td>
<td>サービス起動時の出口機出口機能設定ファイルで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>动</td>
<td>起動ユーザ名</td>
<td>起動ユーザ名定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
<td>サービス運用ユーザ</td>
</tr>
<tr>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
</tr>
<tr>
<td>能</td>
<td>アプリケーション最大処理時間</td>
<td>アプリケーション最大処理時間定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
<td>アプリケーション最大処理時間</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>アプリケーション最大処理時間超過時の制御</td>
<td>アプリケーション最大処理時間超過時の制御定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
<td>アプリケーションの最大処理時間を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ワークユニット起動待ち時間</td>
<td>プロセス起動待ち時間定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
<td>プロセスの起動が完了するまでの監視時間を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>プロセス強制停止時間</td>
<td>プロセス停止待ち時間定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
<td>プロセスの停止が完了するまでの監視時間を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>停止時間</td>
<td>リトライカウント</td>
<td>リトライカウントリセット時間</td>
<td>プロセスが異常終了した場合の、自動再起動回数の上限を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
<td>-------------------------------------------------------------</td>
</tr>
<tr>
<td>リトライカウント</td>
<td>IJServer定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
<td>IJServer定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
<td>プロセスが異常終了した場合の、自動再起動回数の上限を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>リトライカウントリセット時間</td>
<td>Interstage管理コンソールのワークユニット設定 □リトライカウント</td>
<td>Interstage管理コンソールのワークユニット設定 □リトライカウントリセット時間</td>
<td>プロセスが異常終了した場合の、自動再起動回数がリセットされる時間を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>デバッグ起動</td>
<td>IJServer定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
<td>デバッグ</td>
<td>デバッグ起動は以下の定義項目を更新します。 - アプリケーションのランミコンサドに以下設定</td>
</tr>
<tr>
<td>カレントディレクトリ</td>
<td>IJServer定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
<td>カレントディレクトリのパス</td>
<td>プロセスが使用するカレントディレクトリのパスは変更できません。</td>
</tr>
<tr>
<td>カレントディレクトリのタイプ</td>
<td>IJServer定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
<td>-</td>
<td>プロセスが使用するカレントディレクトリのタイプを指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>退避するカレントディレクトリの世代数</td>
<td>IJServer定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
<td>退避するカレントディレクトリの世代数</td>
<td>プロセスが使用するカレントディレクトリを退避する世代数を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>効果/機能名</td>
<td>定義方法</td>
<td>用途/効果/機能</td>
<td>説明</td>
</tr>
<tr>
<td>-------------</td>
<td>-----------</td>
<td>----------------</td>
<td>------</td>
</tr>
<tr>
<td>ログ出ディレクトリ</td>
<td>ログ出ディレクトリの以下のタグで指定します。</td>
<td>ログ出ディレクトリ</td>
<td>ログ出ディレクトリを指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>アプリケーション自動再起動失敗時の制御</td>
<td>アプリケーション自動再起動失敗時の制御</td>
<td>ログ出ディレクトリ</td>
<td>アプリケーション自動再起動失敗時の制御を指定します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

**共通定義**

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名/定義名</th>
<th>機能名/定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>HotDeployの使用</td>
<td>HotDeployの使用</td>
<td>ログ出ディレクトリの以下のタグで指定します。</td>
<td>Java EE 6では、HotDeployの利用可否に関する定義項目はありません。常にHotDeployが利用できます。</td>
</tr>
<tr>
<td>使用するXMLパーサの種別</td>
<td>使用するXMLパーサの種別</td>
<td>ログ出ディレクトリの以下のタグで指定します。</td>
<td>Java EE 6では、富士通XMLパーサは使用できません。</td>
</tr>
<tr>
<td>コンテナのサービス機能</td>
<td>コンテナのサービス機能</td>
<td></td>
<td>Java EE 6では、コンテナのサービス機能の利用可否に関する定義項目はありません。常にコンテナのサービス機能が利用できます。</td>
</tr>
<tr>
<td>クラスローダの分離</td>
<td>マネージドクラスローダのクラスローダ分離管理は、IJServer定義ファイルの&lt;ClassLoader&gt;&lt;SeparationKind&gt;タグの値で指定します。Java EE 6機能の場合、クラスローダの分離方法を指定できません。</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>クラスローダの検索順序</td>
<td>マネージドクラスローダのクラスローダ検索順序は、IJServer定義ファイルの&lt;ClassLoader&gt;&lt;SearchOrder&gt;タグの値で指定します。Java EE 6機能の場合、Webクラスローダの委譲モデルの変更で行います。詳細については、「2.7.1 クラスローダの仕様の違いについて」の「クラスローダの検索順番の変更の可否」を参照してください。</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>クラスローダのトレース情報の出力</td>
<td>マネージドクラスローダのトレース情報の出力は、IJServer定義ファイルの&lt;ClassLoader&gt;&lt;Trace&gt;タグの値で指定します。Java EE 6機能の場合、ロードされたクラスを確認するにはJava VMオプションに-verbose:classを指定してください。ロードされたクラスの情報はJava VMログに出力されます。</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>オートリロード</td>
<td>オートリロード設定は、IJServer定義ファイルの&lt;ClassLoader&gt;&lt;Reload&gt;&lt;Use&gt;タグ、および&lt;Reload&gt;&lt;Interval&gt;タグで指定します。Java EE 6機能の場合は、Interstage Java EE DAS 6サービスでのみ、オートリロードを利用できます。</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>トランザクション内訳分析</td>
<td>トランザクション内訳分析は、IJServer定義ファイルの以下のタグで指定します。Java EE 6機能ではトランザクション内訳分析機能はサポートしていません。</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>測定間隔</td>
<td>測定間隔は、IJServer定義ファイルの以下のタグで指定します。Java EE 6機能ではトランザクション内訳分析機能はサポートしていません。</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
</tbody>
</table>
### サーバーコネクタ

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サーバーコネクタ</td>
<td>サーバーコネクタ</td>
<td>サーバーコネクタ定義ファイルの&lt;WebServer&gt;&lt;WebServerConnector&gt;&lt;WorkunitName&gt;タグの値</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>サーバーコネクタの設定画面で指定</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

| サーバーコネクタのIPアドレス/ポート番 | | |
| | |  |

| アプリケーション名 | | |
| | |  |

| サーバのバーチャルホスト | | |
| | |  |

| コネクタとアドレスの定義 | | |
| | |  |

| コネクタとアドレスの定義 | | |
| | |  |

### 説明
- Interstage管理コンソールの設定画面で指定。
- サーバーとクラスタが同じマシンの場合には**asadmin create-local-instance**で指定。
- ServletコンテナのIPアドレス:ポート番は<WebServer><WebServerConnector><Servlet><Address>タグの値。
- Webアプリケーション名 wscadmin add-application-refサブコマンドで指定。WebサーバとIJServerクラスタが同じマシンの場合には**asadmin deploy**で指定。
- サーバーのバーチャルホスト wscadmin add-virtual-host-refサブコマンドで指定。
- コネクタとアドレスの定義で、コネクタとアドレスの定義はサポートしていません。
<table>
<thead>
<tr>
<th>送受信タイムアウト</th>
<th>送受信タイムアウト</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>送受信タイムアウト</td>
<td>送受信タイムアウト</td>
</tr>
</tbody>
</table>

送受信タイムアウトは、`isj2eeadmin`の`service`サブコマンドの`WebServer`定義ファイルの`<Timeout>`タグの値です。この値は、`Interstage管理コンソール`の`Webサーバコネクタ`の設定画面で指定されます。

送受信タイムアウトは、`wscadmin`の`update-cluster-config`サブコマンドで指定。`WebサーバとIJServerクラスタが同じマシンの場合は`asadmin`の`update-web-server-connector-config`コマンドで指定。

<table>
<thead>
<tr>
<th>Servletコンテナへの最大接続数</th>
<th>Servletコンテナへの最大接続数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Servletコンテナへの最大接続数</td>
<td>Servletコンテナへの最大接続数</td>
</tr>
</tbody>
</table>

Servletコンテナへの最大接続数は、`isj2eeadmin`の`service`サブコマンドの`WebServer`定義ファイルの`<MaxProcessors>`タグの値です。この値は、`Interstage管理コンソール`の`Webサーバコネクタ`の設定画面で指定されます。

Servletコンテナへの最大接続数は、`wscadmin`の`update-cluster-config`サブコマンドで指定。`WebサーバとIJServerクラスタが同じマシンの場合は`asadmin`の`update-web-server-connector-config`コマンドで指定。

<table>
<thead>
<tr>
<th>故障監視方式</th>
<th>故障監視方式</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>故障監視方式</td>
<td>故障監視方式</td>
</tr>
</tbody>
</table>

故障監視方式は、`isj2eeadmin`の`service`サブコマンドの`WebServer`定義ファイルの`<FaultMonitor>`タグの値で指定。このタグの値は、`Interstage管理コンソール`の`Webサーバコネクタ`の故障監視設定画面で指定されます。

故障監視方式は、`wscadmin`の`update-fault-monitor-config`サブコマンドで指定。

<table>
<thead>
<tr>
<th>故障監視間隔</th>
<th>故障監視間隔</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>故障監視間隔</td>
<td>故障監視間隔</td>
</tr>
</tbody>
</table>

故障監視間隔は、`isj2eeadmin`の`service`サブコマンドの`WebServer`定義ファイルの`<FaultMonitor>`タグの値で指定。このタグの値は、`Interstage管理コンソール`の`Webサーバコネクタ`の故障監視設定画面で指定されます。

故障監視間隔は、`wscadmin`の`update-fault-monitor-config`サブコマンドで指定。

<table>
<thead>
<tr>
<th>応答待ち時間</th>
<th>応答待ち時間</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>応答待ち時間</td>
<td>応答待ち時間</td>
</tr>
</tbody>
</table>

応答待ち時間は、`isj2eeadmin`の`service`サブコマンドの`WebServer`定義ファイルの`<FaultMonitor>`タグの値で指定。このタグの値は、`Interstage管理コンソール`の`Webサーバコネクタ`の故障監視設定画面で指定されます。

応答待ち時間は、`wscadmin`の`update-fault-monitor-config`サブコマンドで指定。

<table>
<thead>
<tr>
<th>故障時のリトライ回数</th>
<th>故障時のリトライ回数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>故障時のリトライ回数</td>
<td>故障時のリトライ回数</td>
</tr>
</tbody>
</table>

故障時のリトライ回数は、`isj2eeadmin`の`service`サブコマンドの`WebServer`定義ファイルの`<FaultMonitor>`タグの値で指定。このタグの値は、`Interstage管理コンソール`の`Webサーバコネクタ`の故障監視設定画面で指定されます。

故障時のリトライ回数は、`wscadmin`の`update-fault-monitor-config`サブコマンドで指定。

<table>
<thead>
<tr>
<th>起動待ち時間</th>
<th>起動待ち時間</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>起動待ち時間</td>
<td>起動待ち時間</td>
</tr>
</tbody>
</table>

起動待ち時間は、`isj2eeadmin`の`service`サブコマンドの`WebServer`定義ファイルの`<FaultMonitor>`タグの値で指定。このタグの値は、`Interstage管理コンソール`の`Webサーバコネクタ`の故障監視設定画面で指定されます。

起動待ち時間は、`wscadmin`の`update-fault-monitor-config`サブコマンドで指定。

<table>
<thead>
<tr>
<th>ログ出力ディレクトリ</th>
<th>ログ出力ディレクトリ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ログ出力ディレクトリ</td>
<td>ログ出力ディレクトリ</td>
</tr>
</tbody>
</table>

ログ出力ディレクトリは、`isj2eeadmin`の`service`サブコマンドの`WebServer`定義ファイルの`<Log>`タグの値で指定。このタグの値は、`Interstage管理コンソール`の`Webサーバコネクタ`のログ設定画面で指定されます。

ログ出力ディレクトリは、`wscadmin`の`update-log-config`サブコマンドで指定。
### サービスコンテナ

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ServletコンテナのIPアドレス</td>
<td>サービスコンテナのIJServer定義ファイルの&lt;IPAddress&gt;タグの値</td>
<td>ネットワークアドレス</td>
<td>項目の設定を行った場合、サーバで有効なすべてのIPアドレスを指定する場合は、「0.0.0.0」を指定してください。</td>
</tr>
<tr>
<td>項目</td>
<td>取得元</td>
<td>サブコンマンドの設定ファイルのタグの値</td>
<td>サブコマンドの設定ファイルの設定画面のタグの値</td>
</tr>
<tr>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
</tr>
<tr>
<td>タイムアウト</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServerワークユニットの設定画面で指定</td>
<td>接続アップロードタイムアウト</td>
<td>asadminコマンドで操作できる定義項目の</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ポート番号</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServerワークユニットの設定画面で指定</td>
<td>ポート番号</td>
<td>asadminコマンドで操作できる定義項目の</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>最大接続数</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServerワークユニットの設定画面で指定</td>
<td>最大接続数</td>
<td>asadminコマンドで操作できる定義項目の</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>同時処理数（初期値）</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServerワークユニットの設定画面で指定</td>
<td>最小プールサイズ</td>
<td>asadminコマンドで操作できる定義項目の</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>同時処理数（最大値）</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServerワークユニットの設定画面で指定</td>
<td>最大プールサイズ</td>
<td>asadminコマンドで操作できる定義項目の</td>
</tr>
<tr>
<td>項目</td>
<td>説明</td>
<td>機能差異の詳細</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>------</td>
<td>------</td>
<td>----------------</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>同時処理数（待機中の最大値）</td>
<td>インスタントサーバの<strong>isj2eeadmin</strong>サブコンソールの<strong>IJServer</strong>定義ファイルの**&lt;IJServer&gt;&lt;Web&gt;&lt;ThreadConcurrency&gt;&lt;MaxSpareThreads&gt;**タグの値を指定します。</td>
<td><strong>Java EE 6</strong>機能の場合、互換モードの**&lt;glassfish-web-app&gt;&lt;property&gt;<strong>タグの</strong>listings<strong>プロパティが</strong>UTF-8**固定となります。機能差異の詳細は「2.9.1 Servletの機能差異について」を参照してください。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ファイルの一覧表示</td>
<td>インスタントサーバの<strong>isj2eeadmin</strong>サブコンソールの<strong>IJServer</strong>定義ファイルの**&lt;IJServer&gt;&lt;Web&gt;&lt;Listings&gt;**タグの値を指定します。</td>
<td><strong>Java EE 6</strong>機能の場合、ファイルの一覧表示のリンクに使用するエンコーディングは<strong>UTF-8</strong>固定となります。機能差異の詳細は「2.9.1 Servletの機能差異について」を参照してください。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>マッピングがなくてもサーブレットが動作する</td>
<td>インスタントサーバの<strong>isj2eeadmin</strong>サブコンソールの<strong>IJServer</strong>定義ファイルの**&lt;IJServer&gt;&lt;Web&gt;&lt;InvokerServletMapping&gt;**タグの値を指定します。</td>
<td>セキュリティ上の観点から、**&lt;invoked-webapp/&gt;**タグは使用すべきでない機能であり、<strong>Java EE 6</strong>機能では本機能に対応するものはありません。機能差異の詳細は「2.9.1 Servletの機能差異について」を参照してください。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>カスタムタグプールの使用</td>
<td>インスタントサーバの<strong>isj2eeadmin</strong>サブコンソールの<strong>IJServer</strong>定義ファイルの**&lt;IJServer&gt;&lt;Web&gt;&lt;EnablePooling&gt;**タグの値を指定します。</td>
<td>タグプールの使用は<strong>Interstage Web application deployment descriptor (sun-web.xml)<strong>ファイルの</strong>&lt;sun-web-app&gt;&lt;jsp-config&gt;&lt;property&gt;<strong>タグの</strong>enablePooling</strong>プロパティで指定されます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>リクエストURIのエンコーディング</td>
<td>インスタントサーバの<strong>isj2eeadmin</strong>サブコンソールの<strong>IJServer</strong>定義ファイルの**&lt;IJServer&gt;&lt;Web&gt;&lt;URIEncoding&gt;**タグの値を指定します。</td>
<td>リクエストボディ処理のエンコーディングをクエリパラメタに使用します。クエリパラメタの解析には、「Interstage Web application deployment descriptor (sun-web.xml)」の<strong>parameter-encoding</strong>タグの<strong>default-charset</strong>属性で指定したエンコーディングがリクエストボディ処理と共通で使用されます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>リクエストボディ処理のエンコーディングをクエリパラメタに使用</td>
<td>インスタントサーバの<strong>isj2eeadmin</strong>サブコンソールの<strong>IJServer</strong>定義ファイルの**&lt;IJServer&gt;&lt;Web&gt;&lt;UseBodyEncodingForURI&gt;**タグの値を指定します。</td>
<td><strong>Java EE 6</strong>機能の場合、本定義に相当する定義は存在しません。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>設定項目</td>
<td>送受信タイムアウト</td>
<td>要求を受け付けるWebサーバのIPアドレス</td>
<td>静的リソースにディスパッチ時のエンコーディング</td>
</tr>
<tr>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
</tr>
<tr>
<td>サブコマンドの<code>&lt;protocol&gt;</code>タグの値</td>
<td>サブコマンドの<code>&lt;protocol&gt;</code>タグの値</td>
<td>サブコマンドの<code>&lt;protocol&gt;</code>タグの値</td>
<td>サブコマンドの<code>&lt;protocol&gt;</code>タグの値</td>
</tr>
<tr>
<td><code>&lt;virtual-host&gt;</code>タグの値</td>
<td><code>&lt;virtual-host&gt;</code>タグの値</td>
<td><code>&lt;virtual-host&gt;</code>タグの値</td>
<td><code>&lt;virtual-host&gt;</code>タグの値</td>
</tr>
<tr>
<td><code>&lt;allowed-remote-address&gt;</code>タグの値</td>
<td><code>&lt;allowed-remote-address&gt;</code>タグの値</td>
<td><code>&lt;allowed-remote-address&gt;</code>タグの値</td>
<td><code>&lt;allowed-remote-address&gt;</code>タグの値</td>
</tr>
</tbody>
</table>

Java EE 6機能の場合、デフォルトの動作は要求を受け付けるWebサーバのIPアドレスが指定されていない状態となり、WebコンテナはすべてのWebサーバからのリクエストを受け付けます。機能差異の詳細は「2.9.1 Servletの機能差異について」を参照してください。
<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
<th>変数</th>
<th>参照書籍</th>
</tr>
</thead>
</table>
| Servletコンテナへの最大接続数 | Interstage管理コンソールのIJServer定義ファイルの `<Web>` `<AllowedMaxConnections>`タグの値 | `asadmin`コマンドで操作できる定義項目の`<clusterName_instanceName_confName>.network-config.protocols.protocol.${protocol-name}.http.max-connections` | Java EE 6機能の場合、コネクタとWebコンテナ間で1回のコネクションで処理可能なリクエスト数を指定してください。なおデフォルト値は0でキープアライブは無効に設定されています。
| コネクタとWebコンテナ間のSSLの使用 | Interstage管理コンソールのIJServer定義ファイルの `<Web>` `<SSLConfName>`タグの値 | `asadmin`コマンドで操作できる定義項目の`<clusterName_instanceName_confName>.network-config.protocols.protocol.${protocol-name}.ssl.ssl3-enabled/ssl3-tls-ciphers/tls-enabled` | 以下の条件に該当する場合、Java機能とJava EE 6機能で動作の違いがあります。条件: ブラウザとサーバ間をSSLで通信しない場合、かつサーバコネクタとコンテナをSSLで通信する場合。
| コネクタとWebコンテナ間のKeepAlive | Interstage管理コンソールのIJServer定義ファイルの `<Web>` `<AllowKeepAlive>`タグの値 | `asadmin`コマンドで操作できる定義項目の`<clusterName_instanceName_confName>.network-config.protocols.protocol.${protocol-name}.http.max-connections` | Java EE 6機能の場合、コネクタとWebコンテナ間で1回のコネクションで処理可能なリクエスト数を指定してください。なおデフォルト値は0でキープアライブは無効に設定されています。

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名/定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>機能名/定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>IIOP通信のSSL使用</td>
<td>isj2eeadminコマンドで指定する&lt;br&gt;IJServer定義ファイルの&lt;br&gt;&lt;IJServer&gt;&lt;Ejb&gt;&lt;SSL&gt;タグの値&lt;br&gt;Interstage管理コンソールの&lt;br&gt;環境設定における&lt;br&gt;EJBコンテナ設定の&lt;br&gt;IIOP通信のSSL使用&lt;br&gt;-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>メソッドの&lt;br&gt;使用は&lt;br&gt;できません。</td>
</tr>
<tr>
<td>IIOP呼び出しの同時処理数(最小)</td>
<td>isj2eeadminコマンドで指定する&lt;br&gt;IJServer定義ファイルの&lt;br&gt;&lt;IJServer&gt;&lt;Ejb&gt;&lt;ThreadConcurrency&gt;&lt;MinSpareThreads&gt;タグの値&lt;br&gt;Interstage管理コンソールの&lt;br&gt;環境設定における&lt;br&gt;EJBコンテナ設定の&lt;br&gt;IIOP呼び出しの同時&lt;br&gt;処理数の最小&lt;br&gt;-</td>
<td>スレッドプールの最小&lt;br&gt;プールサイズ&lt;br&gt;asadminコマンドで操作できる定義&lt;br&gt;項目の&lt;br&gt;&quot;${clusterName_instanceName_conf&lt;br&gt;igName}.thread-pools.thread-pool&lt;br&gt;$.thread-pool-id.min-thread-pool-size&quot;</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>IIOP呼び出しの同時処理数(最大)</td>
<td>isj2eeadminコマンドで指定する&lt;br&gt;IJServer定義ファイルの&lt;br&gt;&lt;IJServer&gt;&lt;Ejb&gt;&lt;ThreadConcurrency&gt;&lt;MaxThreads&gt;タグの値&lt;br&gt;Interstage管理コンソールの&lt;br&gt;環境設定における&lt;br&gt;EJBコンテナ設定の&lt;br&gt;IIOP呼び出しの同時&lt;br&gt;処理数の最大&lt;br&gt;-</td>
<td>スレッドプールの最大&lt;br&gt;プールサイズ&lt;br&gt;asadminコマンドで操作できる定義&lt;br&gt;項目の&lt;br&gt;&quot;${clusterName_instanceName_conf&lt;br&gt;igName}.thread-pools.thread-pool&lt;br&gt;$.thread-pool-id.max-thread-pool-size&quot;</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Message-driven Beanの同時処理数(最小)</td>
<td>isj2eeadminコマンドで指定する&lt;br&gt;IJServer定義ファイルの&lt;br&gt;&lt;IJServer&gt;&lt;Ejb&gt;&lt;MDBThread&gt;&lt;MinSpareThreads&gt;タグの値&lt;br&gt;Interstage管理コンソールの&lt;br&gt;環境設定における&lt;br&gt;EJBコンテナ設定の&lt;br&gt;Message-driven&lt;br&gt;Beanの同時&lt;br&gt;処理数の最小&lt;br&gt;-</td>
<td>スレッドプールの最小&lt;br&gt;プールサイズ&lt;br&gt;asadminコマンドで操作できる定義&lt;br&gt;項目の&lt;br&gt;&quot;${clusterName_instanceName_conf&lt;br&gt;igName}.thread-pools.thread-pool&lt;br&gt;$.thread-pool-id.min-thread-pool-size&quot;</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Message-driven Beanの同時処理数(最大)</td>
<td>isj2eeadminコマンドで指定する&lt;br&gt;IJServer定義ファイルの&lt;br&gt;&lt;IJServer&gt;&lt;Ejb&gt;&lt;MDBThread&gt;&lt;MaxThreads&gt;タグの値&lt;br&gt;Interstage管理コンソールの&lt;br&gt;環境設定における&lt;br&gt;EJBコンテナ設定の&lt;br&gt;Message-driven&lt;br&gt;Beanの同時&lt;br&gt;処理数の最大&lt;br&gt;-</td>
<td>スレッドプールの最大&lt;br&gt;プールサイズ&lt;br&gt;asadminコマンドで操作できる定義&lt;br&gt;項目の&lt;br&gt;&quot;${clusterName_instanceName_conf&lt;br&gt;igName}.thread-pools.thread-pool&lt;br&gt;$.thread-pool-id.max-thread-pool-size&quot;</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>項目</td>
<td>メモ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>------</td>
<td>------</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Message-driven Beanの同時処理数</td>
<td>スレッドプールのアイドルタイムアウト</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>分散トランザクションを使用する</td>
<td>- 定義不要です -</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>IPCOMのメソッド負荷分散する</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>IPCOMのメソッド負荷分散の仮想ホスト名</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

詳しくは、「2.20 トランザクション」を参照してください。
### 3.9 DBコネクション設定

<table>
<thead>
<tr>
<th>データベース名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>データソース名</td>
<td>isj2eeadminコマンドで指定するIJServer定義ファイルの&lt;Datasources&gt;&lt;Datasource&gt;&lt;Name&gt;タグの値</td>
<td>ここにデータソース名を定義します。</td>
</tr>
<tr>
<td>タグの値</td>
<td>トランザクションアイソレーションレベル</td>
<td>トランザクション遮断</td>
</tr>
<tr>
<td>---------</td>
<td>----------------------------------</td>
<td>----------------------</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;データソース名&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;データソース名&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;トランザクションアイソレーションレベル&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;トランザクションアイソレーションレベル&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;事前コネクト数&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;初期および最小プールサイズ&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;事前コネクト数&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大コネクション数&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大プールサイズ&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;最大コネクション数&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;アイドルタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;アイドルタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;最大待ち時間&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;最大待ち時間&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;最大待ち時間&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;最大待ち時間&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;最大待ち時間&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
<tr>
<td>&quot;最大待ち時間&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;コネクションタイムアウト&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServer設定におけるDBコネクション設定の &quot;最大待ち時間&quot;</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| ルタイムアウト | 通信待ち時間 | 文のタイムアウト | リソースのタイムアウト asadminコマンドで操作できる定義項目の
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>通信待ち時間</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
| キャッシュサイズ | Statementキャッシュサイズ | Statementキャッシュサイズ | キャッシュサイズ (追加プロパティで指定)
| 自動クローズ | Statement自動クローズ | Statement自動クローズ | 自動クローズ (追加プロパティで指定)
| 異常時の再接続 | 異常時の再接続 | 接続検証 | 異常時の接続検証 asadminコマンドで操作できる定義項目の
| インターバル時間 | インターバル時間 | 再試行間隔 | インターバル時間 asadminコマンドで操作できる定義項目の
| リトライ回数 | リトライ回数 | 作成再試行回数 | リトライ回数 asadminコマンドで操作できる定義項目の

**Java EE 6機能の場合には** JDBCドライバ側のプロパティ (Symfowareの場合のSYMOptionのstatementcacheオプション、またはOracleの場合のMaxStatementsオプションなど) でチューニングしてください。

**異常時の再接続**

- 接続検証

**インターバル時間**

- 再試行間隔

**リトライ回数**

- 作成再試行回数
### Webアプリケーション

<table>
<thead>
<tr>
<th>モジュール名</th>
<th>所定定義方法</th>
<th>画面で指定</th>
<th>配備画面で指定</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>アプリケーション名</td>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>モジュール名指定</td>
<td>モジュール名指定</td>
<td>Webアプリケーション名のデフィンシオオプションで指定</td>
</tr>
<tr>
<td>コンテキストルート</td>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>コンテキストルート</td>
<td>コンテキストルート</td>
<td>コンテキストルート指定</td>
</tr>
<tr>
<td>ファイル名注意</td>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>ファイル名注意</td>
<td>ファイル名注意</td>
<td>ファイル名注意指定</td>
</tr>
<tr>
<td>クッキーに設定する</td>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>クッキーに設定する</td>
<td>クッキーに設定する</td>
<td>クッキーに設定する指定</td>
</tr>
<tr>
<td>ブラウザでセッションを保存する</td>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>ブラウザでセッションを保存する</td>
<td>ブラウザでセッションを保存する</td>
<td>ブラウザでセッションを保存する指定</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### モジュール名

#### 画面で指定

- アプリケーション名のデフィンシオオプションで指定
- コンテキストルートのデフィンシオオプションで指定
- クッキーのデフィンシオデフォルト
- ブラウザでセッションを保存する特化オプションで指定

#### 配備画面で指定

- Interstage管理コンソールの配備画面で指定
- モジュール名のデフォルト
- コンテキストルートのデフォルト
- クッキーのデフォルト
- ブラウザでセッションを保存するデフォルト

#### 説明

- モジュール名/デフィンシオ
- アプリケーション名/デフィンシオ
- コンテキストルート/デフィンシオ
- クッキー/デフィンシオ
- ブラウザでセッションを保存する/デフィンシオ

### モジュール名のデフィンシオ

- モジュール名指定
- コンテキストルート指定
- ファイル名注意指定
- クッキーに設定する指定
- ブラウザでセッションを保存する指定

### コンテキストルートのデフィンシオ

- コンテキストルート指定
- ファイル名注意指定
- クッキーに設定する指定
- ブラウザでセッションを保存する指定

### クッキーのデフィンシオ

- クッキーに設定する指定
- ブラウザでセッションを保存する指定

### ブラウザでセッションを保存するのデフィンシオ

- ブラウザでセッションを保存する指定

### 機能差異の詳細

- 日本語ウェブアプリケーション: 「Interstage管理コンソール」 - 「ヘルプ」 - 「配備」
- Java EE 6ウェブアプリケーション: 「Java EE 6の概要」 - 「注意事項」 - 「配備時の注意事項」 - 「アプリケーションのファイル名の注意事項」

詳細はそれぞれ以下のリンクを参照してください。

- 「Interstage管理コンソール」 - 「ヘルプ」 - 「配備」
- 「Java EE 6の概要」 - 「注意事項」 - 「配備時の注意事項」 - 「アプリケーションのファイル名の注意事項」
クッキーにSecure属性を常に付加する
配備モジュールの格納するWebモジュール定義ファイルの<session><web-browser>タグの値
クッキーにSecure属性を常に付加する
配備モジュールの格納するWebモジュール定義ファイルの<session><cookie-settings>タグの値
エンコーディング
配備モジュールの格納するWebモジュール定義ファイルの<session><encoding>タグの値
エンコーディング
配備モジュールの格納するWebモジュール定義ファイルの<session><parameter-encoding>タグの値
認証
配備モジュールの格納するWebモジュール定義ファイルの<session><authentication>タグの値
- -
J2EEとJava EEで使用できる文字が違います。詳細はそれぞれ以下を参照してください。
- ひも
「Interstage管理コンソール」-「ヘルプ」-「配備」
・ ひも
「Java EE運用ガイド(Java EE 6編)」-「Java EE 6の概要」
<table>
<thead>
<tr>
<th>アプリケーション名</th>
<th>エントリ</th>
<th>アプリケーション名</th>
<th>エンタープライズJavaBeans構成子ファイルの注意事項</th>
<th>注意事項</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>-</td>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>エンタープライズJavaBeans構成子ファイルの注意事項</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>EJBアプリケーション名</td>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>エンタープライズJavaBeans構成子ファイルの注意事項</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>-</td>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>エンタープライズJavaBeans構成子ファイルの注意事項</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>Enterprise Bean 名</td>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>Interstage管理コンソールの配備画面で指定</td>
<td>エンタープライズJavaBeans構成子ファイルの注意事項</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJB application deployment descriptor (glassfish-ejb-jar.xml)ファイルの&lt;sun-ejb-jar&gt;&lt;enterprise-beans&gt;&lt;ejb&gt;&lt;jndi-name&gt;タグの値</td>
<td>Interstage EJB application deployment descriptor (glassfish-ejb-jar.xml)ファイルの&lt;sun-ejb-jar&gt;&lt;enterprise-beans&gt;&lt;ejb&gt;&lt;jndi-name&gt;タグの値</td>
<td>Interstage EJB application deployment descriptor (glassfish-ejb-jar.xml)ファイルの&lt;sun-ejb-jar&gt;&lt;enterprise-beans&gt;&lt;ejb&gt;&lt;jndi-name&gt;タグの値</td>
<td>Interstage EJB application deployment descriptor (glassfish-ejb-jar.xml)ファイルの&lt;sun-ejb-jar&gt;&lt;enterprise-beans&gt;&lt;ejb&gt;&lt;jndi-name&gt;タグの値</td>
<td>Interstage EJB application deployment descriptor (glassfish-ejb-jar.xml)ファイルの&lt;sun-ejb-jar&gt;&lt;enterprise-beans&gt;&lt;ejb&gt;&lt;jndi-name&gt;タグの値</td>
</tr>
<tr>
<td>Enterprise Bean 名</td>
<td>Interstage EJB application deployment descriptor (glassfish-ejb-jar.xml)ファイルの&lt;ejb-name&gt;タグの値</td>
<td>Interstage EJB application deployment descriptor (glassfish-ejb-jar.xml)ファイルの&lt;ejb-name&gt;タグの値</td>
<td>Interstage EJB application deployment descriptor (glassfish-ejb-jar.xml)ファイルの&lt;ejb-name&gt;タグの値</td>
<td>Interstage EJB application deployment descriptor (glassfish-ejb-jar.xml)ファイルの&lt;ejb-name&gt;タグの値</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon管理種別</td>
<td>ログマンドで指定する</td>
<td>ログマンドで指定する</td>
<td>ログマンドで指定する</td>
<td>ログマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
<tr>
<td>Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
<td>エントリ</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| Tranzakshon環境定義のトランザクション管理種別 | エントリ | エントリ | エン...
<table>
<thead>
<tr>
<th>環境プロパティ</th>
<th>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</th>
<th>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</th>
<th>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティアイデンティティ</th>
<th>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</th>
<th>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</th>
<th>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</th>
<th>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</th>
<th>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</th>
<th>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
<td>エンタープライズビーン定義ファイルのejbdefimportコマンドで指定する</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※編集できません。エンタープライズビーン定義ファイルの<env-entry>の値が自動的に反映されます。
アプリケーション：アプリケーション環境定義の「セキュリティ」アイデンティティ

※編集できません。ejb-jar.xmlファイルの<security-identity>タグの値が自動的に反映されます。

<table>
<thead>
<tr>
<th>版本</th>
<th>版本</th>
<th>版本</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>CMPバージョン</td>
<td>CMPバージョン</td>
<td>CMPバージョン</td>
</tr>
<tr>
<td>CMPバージョン</td>
<td>CMPバージョン</td>
<td>CMPバージョン</td>
</tr>
</tbody>
</table>

CMPバージョン EJB application deployment descriptor (ejb-jar.xml)ファイルの<cmp-version>タグの値です。
Java EE 6機能では、ejb-jar.xmlファイルの値を変更したい場合には、ejb-jar.xmlファイルの値を直接編集して再配備します。

<table>
<thead>
<tr>
<th>抽象スキーマ名</th>
<th>抽象スキーマ名</th>
<th>抽象スキーマ名</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>抽象スキーマ名</td>
<td>抽象スキーマ名</td>
<td>抽象スキーマ名</td>
</tr>
</tbody>
</table>

抽象スキーマ名 EJB application deployment descriptor (ejb-jar.xml)ファイルの<abstract-schema-name>タグの値です。
Java EE 6機能では、ejb-jar.xmlファイルの値を変更したい場合には、ejb-jar.xmlファイルの値を直接編集して再配備します。

<table>
<thead>
<tr>
<th>メッセージセレクタ</th>
<th>メッセージセレクタ</th>
<th>メッセージセレクタ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>メッセージセレクタ</td>
<td>メッセージセレクタ</td>
<td>メッセージセレクタ</td>
</tr>
</tbody>
</table>

メッセージセレクタ EJB application deployment descriptor (ejb-jar.xml)ファイルの<message-selector>タグの値です。
Java EE 6機能では、ejb-jar.xmlファイルの値を変更したい場合には、ejb-jar.xmlファイルの値を直接編集して再配備します。

<table>
<thead>
<tr>
<th>Destinationタイプ/サブスクライバの永続性</th>
<th>Destinationタイプ/サブスクライバの永続性</th>
<th>Destinationタイプ/サブスクライバの永続性</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Destinationタイプ/サブスクライバの永続性</td>
<td>Destinationタイプ/サブスクライバの永続性</td>
<td>Destinationタイプ/サブスクライバの永続性</td>
</tr>
</tbody>
</table>

Destinationタイプ/サブスクライバの永続性 EJB application deployment descriptor (ejb-jar.xml)ファイルの<message-driven-destination>タグの値です。
Java EE 6機能では、ejb-jar.xmlファイルの値を変更したい場合には、ejb-jar.xmlファイルの値を直接編集して再配備します。

<table>
<thead>
<tr>
<th>メソッドパーミッション</th>
<th>メソッドパーミッション</th>
<th>メソッドパーミッション</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>メソッドパーミッション</td>
<td>メソッドパーミッション</td>
<td>メソッドパーミッション</td>
</tr>
</tbody>
</table>

メソッドパーミッション EJB application deployment descriptor (ejb-jar.xml)ファイルの<method-permission>の値です。
Java EE 6機能では、ejb-jar.xmlファイルの値を変更したい場合については、ejb-jar.xmlファイルの値を直接編集して再配備します。
### トランザクション属性

<table>
<thead>
<tr>
<th>定義ファイルの&lt;method-permission&gt;タグの値</th>
<th>トランザクション属性</th>
<th>場合には、ejb-jar.xmlファイルの&lt;trans-attribute&gt;タグの値を直接編集して再配備します。</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>トランザクションタイムアウト値</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>分散トランザクション</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>標準出力、標準エラー出力取得モード</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>標準出力、標準エラー出力ファイル</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>ローカル呼出しを使用</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### Java EE 6機能

- NotSupported
- Supports
- Never

Java EE 6機能では、ejb-jar.xmlファイルの値を変更したい場合には、ejb-jar.xmlファイルの値を直接編集して再配備します。

- Java EE 6機能ではトランザクションタイムアウトは、IJServerクラスタ単位にトランザクションサービスの定義項目で設定します。
- Java EE 6機能では、分散トランザクションを利用するかどうかについては、XAResourceを利用したか/トランザクション開始した状態でIIOP通信したかによって自動的に制御します。このため、分散トランザクションを利用するかどうかについては設定はありません。
- Java EE 6機能では標準出力、標準エラー出力の情報はサーバーログに出力されます。
- Java EE 6機能では標準出力、標準エラー出力の情報をサーバーに自動的に出力されます。
- Java EE 6機能では同一プロセス内にアプリケーションから呼び出されたエージェントのアプレケーションパスを呼び出すことができます。
- Java EE 6機能では本定義に相当する定義は存在しません。同一の配備モジュール内のエージェントを呼び出した
Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の「ローカル呼び出し」場合には、自動的にネットワークを跨らずに最適な呼び出しで動作します。

J2EEでは、同一プロセス内のEJBアプリケーションの呼び出しにいて、ローカル呼び出しが可能です。Java EE 6では、同一プロセス内のEJBアプリケーションの呼び出しであっても、異なる配備モジュールのEJBアプリケーションへの呼び出しは、ネットワークを跨っ呼び出しで動作します。

無通信監視時間

キャッシュアイドルタイムアウト:キャッシュにいられる最大時間

キャッシュアイドルタイムアウト

削除タイムアウト:無通信タイムアウト時間

削除タイムアウト

セッションタイムアウト

値

キャッシュの最大値:最大キャッシュサイズ

キャッシュの最大値:最大キャッシュサイズ

Stateful bean同時接続数

キャッシュアイドルタイムアウト/削除タイムアウト/無通信監視時間
<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>値</th>
<th>付記事項</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の同時接続数</td>
<td>-</td>
<td>のEJBコンテナ単位に定義することもできます。</td>
</tr>
<tr>
<td>最大キャッシュサイズ</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>Stateless beanの起動時インスタンス生成</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>Stateless beanの初動および最小プールサイズ</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>Stateless Session Beanのインスタンスを初期状態で作成する数</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>IIOP通信によりプロセス外からEntity Beanを呼び出した場合にEJB objectを削除するまでのタイムアウト</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>Entity Beanのインスタンス管理モード</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
</tbody>
</table>

Entity BeanのEJB objectタイムアウト値

Entity Beanのインスタンスがキャッシュにいられる最大時間/キャッシュアイドルタイムアウト

Entity Beanのインスタンスがキャッシュにいられる最大時間/キャッシュアイドルタイムアウト

Entity Beanのインスタンスがキャッシュにいられる最大時間/キャッシュアイドルタイムアウト

Entity Beanのインスタンスがキャッシュにいられる最大時間/キャッシュアイドルタイムアウト

Entity Beanのインスタンスがキャッシュにいられる最大時間/キャッシュアイドルタイムアウト

Entity Beanのインスタンスがキャッシュにいられる最大時間/キャッシュアイドルタイムアウト

Entity Beanのインスタンスがキャッシュにいられる最大時間/キャッシュアイドルタイムアウト

Entity Beanのインスタンスがキャッシュにいられる最大時間/キャッシュアイドルタイムアウト

Entity Beanのインスタンスがキャッシュにいられる最大時間/キャッシュアイドルタイムアウト
<table>
<thead>
<tr>
<th>カラム</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>インスタンス数</td>
<td>Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション：アプリケーション環境定義のインスタンス数。最大プールサイズ/インスタンスの最大数を指定する。Entity Beanのインスタンス数の最大値を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>インスタンス生成モード</td>
<td>Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション：アプリケーション環境定義のインスタンス数。Entity Beanのインスタンスを生成するタイミングを指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>複数レコードの一括更新</td>
<td>Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション：アプリケーション環境定義のインスタンス数。複数レコードの一括更新処理可能な場合には、自動的に一括更新します。</td>
</tr>
<tr>
<td>受信対象種別</td>
<td>Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション：アプリケーション環境定義のインスタンス数。メッセージ受信対象の種別としてJMSまたはresourceadapterを選択します。</td>
</tr>
<tr>
<td>Entity Beanのインスタンス数</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するEnterprise Bean定義ファイルのTagの値。Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション：アプリケーション環境定義のインスタンス数。</td>
</tr>
<tr>
<td>Entity Beanのインスタンス生成モード</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するEnterprise Bean定義ファイルのTagの値。Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション：アプリケーション環境定義のインスタンス数。</td>
</tr>
<tr>
<td>Entity Beanの複数レコードの一括更新</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するEnterprise Bean定義ファイルのTagの値。Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション：アプリケーション環境定義のインスタンス数。</td>
</tr>
<tr>
<td>受信対象種別</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するEnterprise Bean定義ファイルのTagの値。Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション：アプリケーション環境定義のインスタンス数。</td>
</tr>
<tr>
<td>インスタンス数の最大値</td>
<td>ejbdefimportコマンドで操作できる定義項目のTagの値。Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション：アプリケーション環境定義のインスタンス数の最大値を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>インスタンス生成オプション</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するEnterprise Bean定義ファイルのTagの値。Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション：アプリケーション環境定義のインスタンス数の生成オプション。</td>
</tr>
<tr>
<td>複数レコードの一括更新</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するEnterprise Bean定義ファイルのTagの値。Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション：アプリケーション環境定義のインスタンス数。複数レコードの一括更新処理可能な場合には、自動的に一括更新します。</td>
</tr>
<tr>
<td>受信対象種別</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するEnterprise Bean定義ファイルのTagの値。Interstage管理コンソールのEJBアプリケーション：アプリケーション環境定義のインスタンス数。</td>
</tr>
<tr>
<td>メッセージ受信対象の種別</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するEnterprise Bean定義ファイルのTagの値。メッセージ受信対象の種別としてJMSまたはresourceadapterを選択します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

Java EE 6機能の場合、本定義に相当する定義は存在しません。
<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サブスクリバの識別名</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するアプリケーション環境定義のサブスクリバの識別名。アプリケーション環境定義のサブスクリバの識別名を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サブスクリバの識別名</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するアプリケーション環境定義のサブスクリバの識別名。アプリケーション環境定義のサブスクリバの識別名を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>初期起動インスタンス数</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するアプリケーション環境定義の初期起動インスタンス数。Beanインスタンスの最小数(初期および最小プールサイズ)を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>初期起動インスタンス数</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するアプリケーション環境定義の初期起動インスタンス数。Beanインスタンスの最小数(初期および最小プールサイズ)を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>リトライカウント</td>
<td>ejbdefimportコマンドで指定するアプリケーション環境定義のリトライカウント。異常時のメッセージ退避機能用の設定です。異常が発生したメッセージを退避する機能用の設定です。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

**Interstage**

- Interstage EJB application deployment descriptorファイルにBean単位で定義することもできますが、IJServerクラスターのEJBコンテナ単位に定義することもできます。
<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><strong>異常時ループ対処用</strong>&lt;br&gt;<strong>コネクションファクトリ名</strong></td>
<td>Interstage管理コンソールのアプリケーション環境定義の<strong>コネクションファクトリ名</strong></td>
</tr>
<tr>
<td><strong>異常時のメッセージ退避</strong>&lt;br&gt;<strong>Destination名</strong></td>
<td>Interstage管理コンソールのアプリケーション環境定義の<strong>Destination名</strong></td>
</tr>
<tr>
<td><strong>リソースアダプタ名</strong></td>
<td>Interstage管理コンソールのアプリケーション環境定義の<strong>リソースアダプタ名</strong></td>
</tr>
<tr>
<td><strong>初期起動インスタンス数</strong></td>
<td>Interstage管理コンソールのアプリケーション環境定義の<strong>初期起動インスタンス数</strong></td>
</tr>
</tbody>
</table>

**メッセージ受信対象の種別として**レポジトリまたは**メッセージの種別として**を選択します。
**J2EE**機能の場合、**リソースアダプタ名**タグにリソースアダプタ名を指定します。
**Java EE 6**機能の場合、タグに**リソースアダプタ名**指定するか、**リソースアダプタ名**を省略します。

**異常が発生したメッセージを退避する機能用の設定です。**
**異常時メッセージ退避機能を使用する場合には、異常が発生したメッセージを退避する機能用の設定です。詳細は、「Java EE運用ガイド(Java EE 6編)」の「高信頼機能」を参照してください。**

**異常時ループ対処用**コネクションファクトリ名<br>**リソースアダプタ名**<br>**初期起動インスタンス数**<br>**異常時ループ対処用**コネクションファクトリ名<br>**リソースアダプタ名**<br>**初期起動インスタンス数**
### セキュリティロール名に対するユーザID

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するユーザID</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td>初回起動時</td>
<td>初回アクセス時</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するユーザID”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### セキュリティロール名に対するパスワード

<table>
<thead>
<tr>
<th>セキュリティロール名に対するパスワード</th>
<th>J2EE機能の場合：</th>
<th>Java EE 6機能の場合：</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><a href="#setting-method">設定方法</a></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage EJBアプリケーション:アプリケーション環境定義の“セキュリティロール名に対するパスワード”</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
### 定義の「スキーマ名」

**テーブル名**

定義の「スキーマ名」は、テーブル名を指す。テーブル名は、シーケンスで指定する必要がある。テーブル名の指定は、テーブル名のシーケンスで指定する。

### 検索時のロック

検索時のロックは、テーブル名のシーケンスで指定する。

### CMPデータのstream転送

CMPデータのstream転送は、テーブル名のシーケンスで指定する。

### DBカラム名

DBカラム名は、テーブル名のシーケンスで指定する。

### 検索条件

検索条件は、テーブル名のシーケンスで指定する。

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>データソース名</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### シーケンス定義（関連付け）

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>サブタブ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>------------------</td>
<td>------------------</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>スキーマ名</td>
<td>タグの値</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>テーブル名</td>
<td>タグの値</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>複数件検索の高速化</td>
<td>タグの値</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>同時更新データの一貫性保証</td>
<td>タグの値</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>検索時のロック</td>
<td>タグの値</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>DBカラム名</td>
<td>タグの値</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>カラム名</td>
<td>タグの値</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

**スキーマ名**
Interstage管理コンソールのEDIアプリケーションのスキーマ名のタグの値

**テーブル名**
Interstage管理コンソールのEDIアプリケーションのテーブル名のタグの値

**複数件検索の高速化**
Interstage管理コンソールのEDIアプリケーション:アプリケーション環境定義の複数件検索の高速化タグの値

**同時更新データの一貫性保証**
Interstage管理コンソールのEDIアプリケーション:アプリケーション環境定義の同時更新データの一貫性保証のタグの値

**検索時のロック**
Interstage管理コンソールのEDIアプリケーション:アプリケーション環境定義の検索時のロックのタグの値

**DBカラム名**
Interstage管理コンソールのEDIアプリケーション:アプリケーション環境定義のDBカラム名のタグの値

**カラム名**
Interstage管理コンソールのEDIアプリケーション:アプリケーション環境定義のカラム名のタグの値
| スキーマ名 | タグの値 | - | - |
| テーブル名 | タグの値 | - | - |

### J2EE機能

<table>
<thead>
<tr>
<th>J2EE機能</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ポート番号</td>
<td></td>
<td></td>
<td>1.ポート番号は、CORBAサービスが使用する共通のポート番号を指定します。2.Oracle J2EE機能では、クラスタがジョブ接続に使用するポート番号を指定します。ただし、複数のインスタンスが存在する場合は、ポート番号はインスタンスごとに異なっている必要があります。</td>
</tr>
<tr>
<td>クライアントからの最大接続数</td>
<td></td>
<td></td>
<td>クライアントからの最大接続数を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>クライアントからの最大リクエスト数</td>
<td></td>
<td></td>
<td>クライアントからの最大リクエスト数を指定します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

## 3.12 ORB_IIOP

<table>
<thead>
<tr>
<th>J2EE機能</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>クライアントからの最大接続数</td>
<td></td>
<td></td>
<td>クライアントからの最大接続数を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>クライアントからの最大リクエスト数</td>
<td></td>
<td></td>
<td>クライアントからの最大リクエスト数を指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>項目</td>
<td>説明</td>
<td>値</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>----------------------------</td>
<td>----------------------------------------------------------------------</td>
<td>----------------------------------------------------------------------</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>クライアントタイムアウト時間</td>
<td>サーバメソッド復帰時間上記とは意味が異なりますが、処理可能なリクエスト数を決定するパラメータとなります。</td>
<td>定します。Java EE 6機能の最大スレッド数は、上記とは意味が異なりますが、処理可能なリクエスト数を決定するパラメータとなります。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ側無通信監視時間</td>
<td>なし</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>クライアント側無通信監視時間</td>
<td>なし</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>NamingServiceのリモート参照の獲得</td>
<td>アプリケーションにおいて、以下の方法で獲得します。</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1. ローカル環境から獲得</td>
<td>ORB#resolve_initial_references(String id)に&quot;NameService&quot;を指定します。メソッドはネーミングサービスのリモート参照を返却します。</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2. ファイル指定の外部サーバから獲得</td>
<td>inithost(Windows)/initial_hosts(Solaris/Linux)ファイルに、ホスト名、ポート番号が記載（複数可）されている場合、上述のメソッドは記述されたサーバに順次問い合わせを行います。</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3. メソッドで指定したサーバから獲得</td>
<td>ORB#resolve_initial_references_remote(String id, String[] m)のidに&quot;NameService&quot;を指定します。mには、&quot;iiop://&lt;address&gt;[:&lt;port&gt;]&quot;の形式でホスト名を指定します（複数可）。メソッドはネーミングサービスのリモート参照を返却します。</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4. ORBInitRefオプションにINS形式で指定</td>
<td>アプリケーションのオプションとして-ORBInitRefに以下の例のようにINS形式の</td>
<td>-</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>定義します。Java EE 6機能ではCORBAランタイムは公開していません。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
文字列を指定します。
(例) -ORBInitRef NameService=corbaloc::<ホスト名>:<ポート番号>/NameService
アプリケーションでは、受け取った"-ORBInitRef","NameService=..."の文字列をORB#init(String[] argv,
java.util.Properties props)のargvに設定します。この結果メソッドは、ネーミングサービスのリモート参照を返却します。

5. INS形式の文字列から、リモート参照を生成
ORB#string_to_object(String s)のsに以下の例のようにINS形式の文字列を指定します。
(例) "corbaloc::<ホスト名>:<ポート番号>/NameService"
メソッドはネーミングサービスのリモート参照を返却します。

### ORBベンダークラス名

<table>
<thead>
<tr>
<th>プロパティ名</th>
<th>値</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>org.omg.CORBA.ORBClass</td>
<td>com.fujitsu.ObjectDirector.CORBA.ORB</td>
</tr>
<tr>
<td>org.omg.CORBA.ORBSingletonClass</td>
<td>com.fujitsu.ObjectDirector.CORBA.Single</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### ORBランタイム

<table>
<thead>
<tr>
<th>プレインストール型オブジェクトライブラリの場合</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>/opt/FSUNod/etc/class/ODjava4.jar</td>
</tr>
<tr>
<td>/opt/FJSVod/etc/class/ODjava4.jar</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### コード変換機能

| 自動的にコード系をUNICODEと判断します。 |

### クライアント

<table>
<thead>
<tr>
<th>JNDIサービスプロバイダの環境設定</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>機能名</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
</tr>
<tr>
<td>JNDI環境プロパティ</td>
</tr>
<tr>
<td>1. FJjndi.propertiesファイル</td>
</tr>
<tr>
<td>2. javax.naming.InitialContext(Hashtable environment)引数</td>
</tr>
<tr>
<td>3. アプリケーション起動時のコマンドラインでの引数</td>
</tr>
<tr>
<td>JNDI環境プロパティの以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サービスのユーザ認証で使用するユーザ名</td>
</tr>
<tr>
<td>サービスのユーザ認証で使用するパスワード</td>
</tr>
<tr>
<td>アプリケーションのファイル名</td>
</tr>
<tr>
<td>名前変換ファイル名</td>
</tr>
</tbody>
</table>

| サービスのユーザ認証で使用するユーザ名 | FJUserID | - | - | - |
| サービスのユーザ認証で使用するパスワード | FJPassword | - | - | - |
| アプリケーションのファイル名 | Deployment DescriptorClient | - | - | - |
| 名前変換ファイル名 | EBEmulticore.properties | - | - | - |

| アプリケーションのユーザ認証で使用するユーザ名 | FJUserID | - | - | - |
| アプリケーションのユーザ認証で使用するパスワード | FJPassword | - | - | - |
| アプリケーションの配下のファイル名 | Deployment DescriptorClient | - | - | - |
| 名前変換ファイル名 | EBEmulticore.properties | - | - | - |
### クライアント環境での環境設定

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名/定義名</th>
<th>J2EE機能名/定義方法</th>
<th>環境変数</th>
<th>環境変数</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ホスト名</td>
<td>以下のファイルで指定します。</td>
<td>C:\Interstage\ODWIN\etc\inithost</td>
<td></td>
<td>配置するサーバのホスト名の設定</td>
</tr>
<tr>
<td>最大プロセス数</td>
<td>以下のファイルで指定します。</td>
<td></td>
<td></td>
<td>以下のファイルで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>使用するアプリケーション</td>
<td>システム環境変数およびシステム環境変数で指定します。</td>
<td></td>
<td></td>
<td>アプリケーションを実行するための環境設定</td>
</tr>
<tr>
<td>環境変数</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>配置するシステムの環境設定</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 接続に関する設定

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名/定義名</th>
<th>J2EE機能名/定義方法</th>
<th>環境変数</th>
<th>環境変数</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>接続先</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
<td></td>
<td></td>
<td>配置するシステムの環境設定</td>
</tr>
<tr>
<td>接続先</td>
<td>実行時に、以下のコマンドで指定された環境変数を指定します。</td>
<td></td>
<td></td>
<td>以下のコマンドで指定する。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

---

**注意:** テキストの一部が日本語で示されているため、自然な形式に変換する際には注意が必要です。
Webサービスクライアントアプリケーションで、
@javax.xml.ws.WebServiceRefアノテーションの
wsdlLocation属性に定義する

■WebサービスのURLのカスタマイズ
javax.xml.ws.service.endpoint.addressプロパティによって、WebサービスのURLをカスタマイズできます。

| ユーザ名 | プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。 |
| パスワード | プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。 |
| 接続のタイムアウト | プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。 |
| セッション管理の利用 | プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。 |

ユーザ名
プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。

パスワード
プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。

接続のタイムアウト
プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。

セッション管理の利用
プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。

ユーザ名
プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。

パスワード
プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。

ユーザ名
プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。

パスワード
プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。

• 以上サービスクライアントアプリケーションで、
  @javax.xml.ws.WebServiceRefアノテーションの
  wsdlLocation属性に定義する

<table>
<thead>
<tr>
<th>ブロキシに関する設定</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ホスト名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ポート番号</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ブロキシを経由せずに接続するホスト名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ユーザ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>パスワード</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

• 以上サービスクライアントアプリケーションで、
  @javax.xml.ws.WebServiceRefアノテーションの
  wsdlLocation属性に定義する

<table>
<thead>
<tr>
<th>ブロキシに関する設定</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ホスト名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ポート番号</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ブロキシを経由せずに接続するホスト名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ユーザ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>パスワード</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

• 以上サービスクライアントアプリケーションで、
  @javax.xml.ws.WebServiceRefアノテーションの
  wsdlLocation属性に定義する

<table>
<thead>
<tr>
<th>ブロキシに関する設定</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ホスト名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ポート番号</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ブロキシを経由せずに接続するホスト名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ユーザ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>パスワード</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

• 以上サービスクライアントアプリケーションで、
  @javax.xml.ws.WebServiceRefアノテーションの
  wsdlLocation属性に定義する

<table>
<thead>
<tr>
<th>ブロキシに関する設定</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ホスト名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ポート番号</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ブロキシを経由せずに接続するホスト名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ユーザ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>パスワード</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

• 以上サービスクライアントアプリケーションで、
  @javax.xml.ws.WebServiceRefアノテーションの
  wsdlLocation属性に定義する

<table>
<thead>
<tr>
<th>ブロキシに関する設定</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ホスト名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ポート番号</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ブロキシを経由せずに接続するホスト名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ユーザ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>パスワード</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

• 以上サービスクライアントアプリケーションで、
  @javax.xml.ws.WebServiceRefアノテーションの
  wsdlLocation属性に定義する

<table>
<thead>
<tr>
<th>ブロキシに関する設定</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ホスト名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ポート番号</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ブロキシを経由せずに接続するホスト名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>ユーザ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>パスワード</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ名</td>
<td>プログラム中、またはスタブ設定ファイルにて以下のプロパティで指定します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

• 以上サービスクライアントアプリケーションで、
  @javax.xml.ws.WebServiceRefアノテーションの
  wsdlLocation属性に定義する
### Webサービス

#### Webサービスアプリケーションの作成方法

<table>
<thead>
<tr>
<th>必要機能 Name/定義名</th>
<th>必要機能定義方法</th>
<th>必要機能定義方法</th>
<th>必要機能定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サービスエンドポイント</td>
<td>必須です。</td>
<td>サービスエンドポイント</td>
<td>省略可能です。</td>
<td>サービスエンドポイントの実装クラスのみでWebサービスアプリケーションが作成できます。</td>
</tr>
<tr>
<td>インタフェースの定義</td>
<td>java.rmi.Remoteインタフェースを継承したインタフェースとします。メソッドはjava.rmi.RemoteExceptionをthrowします。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースの定義を省略可能です。</td>
<td>必要機能では、エンドポイントの実装クラスのみでWebサービスアプリケーションが作成できます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>サービスエンドポイントインタフェースの定義</td>
<td>必要機能</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
</tr>
<tr>
<td>WSDLの生成</td>
<td>iswsgen wsdlコマンドを使用して生成します。</td>
<td>-</td>
<td>サービスアプリケーションの配備時に自動生成されます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>サービスエンドポイントクラスの実装</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>deployment descriptorの編集</td>
<td>以下のファイルを編集します。</td>
<td>deployment descriptorの編集</td>
<td>サービスアプリケーションの配備時に自動生成されます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>配備</td>
<td>Interstage管理コンソール、またはasadminコマンドで配備します。</td>
<td>配備</td>
<td>サービスアプリケーションの配備時に自動生成されます。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### Webサービスアプリケーションの作成方法

<table>
<thead>
<tr>
<th>必要機能 Name/定義名</th>
<th>必要機能定義方法</th>
<th>必要機能定義方法</th>
<th>必要機能定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サービスエンドポイント</td>
<td>必須です。</td>
<td>サービスエンドポイント</td>
<td>省略可能です。</td>
<td>サービスエンドポイントの実装クラスのみでWebサービスアプリケーションが作成できます。</td>
</tr>
<tr>
<td>インタフェースの定義</td>
<td>java.rmi.Remoteインタフェースを継承したインタフェースとします。メソッドはjava.rmi.RemoteExceptionをthrowします。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースの定義を省略可能です。</td>
<td>必要機能では、エンドポイントの実装クラスのみでWebサービスアプリケーションが作成できます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>サービスエンドポイントインタフェースの定義</td>
<td>必要機能</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
</tr>
<tr>
<td>WSDLの生成</td>
<td>iswsgen wsdlコマンドを使用して生成します。</td>
<td>-</td>
<td>サービスアプリケーションの配備時に自動生成されます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>サービスエンドポイントクラスの実装</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>deployment descriptorの編集</td>
<td>以下のファイルを編集します。</td>
<td>deployment descriptorの編集</td>
<td>サービスアプリケーションの配備時に自動生成されます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>配備</td>
<td>Interstage管理コンソール、またはasadminコマンドで配備します。</td>
<td>配備</td>
<td>サービスアプリケーションの配備時に自動生成されます。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### サービスクライアントアプリケーションの作成方法

<table>
<thead>
<tr>
<th>必要機能 Name/定義名</th>
<th>必要機能定義方法</th>
<th>必要機能定義方法</th>
<th>必要機能定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サービスエンドポイント</td>
<td>必須です。</td>
<td>サービスエンドポイント</td>
<td>省略可能です。</td>
<td>サービスエンドポイントの実装クラスのみでWebサービスアプリケーションが作成できます。</td>
</tr>
<tr>
<td>インタフェースの定義</td>
<td>java.rmi.Remoteインタフェースを継承したインタフェースとします。メソッドはjava.rmi.RemoteExceptionをthrowします。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースの定義を省略可能です。</td>
<td>必要機能では、エンドポイントの実装クラスのみでWebサービスアプリケーションが作成できます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>サービスエンドポイントインタフェースの定義</td>
<td>必要機能</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
</tr>
<tr>
<td>WSDLの生成</td>
<td>iswsgen wsdlコマンドを使用して生成します。</td>
<td>-</td>
<td>サービスアプリケーションの配備時に自動生成されます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>サービスエンドポイントクラスの実装</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>deployment descriptorの編集</td>
<td>以下のファイルを編集します。</td>
<td>deployment descriptorの編集</td>
<td>サービスアプリケーションの配備時に自動生成されます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>配備</td>
<td>Interstage管理コンソール、またはasadminコマンドで配備します。</td>
<td>配備</td>
<td>サービスアプリケーションの配備時に自動生成されます。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### Webサービスクライアントアプリケーションの作成方法

<table>
<thead>
<tr>
<th>必要機能 Name/定義名</th>
<th>必要機能定義方法</th>
<th>必要機能定義方法</th>
<th>必要機能定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サービスエンドポイント</td>
<td>必須です。</td>
<td>サービスエンドポイント</td>
<td>省略可能です。</td>
<td>サービスエンドポイントの実装クラスのみでWebサービスアプリケーションが作成できます。</td>
</tr>
<tr>
<td>インタフェースの定義</td>
<td>java.rmi.Remoteインタフェースを継承したインタフェースとします。メソッドはjava.rmi.RemoteExceptionをthrowします。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースの定義を省略可能です。</td>
<td>必要機能では、エンドポイントの実装クラスのみでWebサービスアプリケーションが作成できます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>サービスエンドポイントインタフェースの定義</td>
<td>必要機能</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
</tr>
<tr>
<td>WSDLの生成</td>
<td>iswsgen wsdlコマンドを使用して生成します。</td>
<td>-</td>
<td>サービスアプリケーションの配備時に自動生成されます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>サービスエンドポイントクラスの実装</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td>サービスエンドポイントインタフェースを実装します。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>deployment descriptorの編集</td>
<td>以下のファイルを編集します。</td>
<td>deployment descriptorの編集</td>
<td>サービスアプリケーションの配備時に自動生成されます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>配備</td>
<td>Interstage管理コンソール、またはasadminコマンドで配備します。</td>
<td>配備</td>
<td>サービスアプリケーションの配備時に自動生成されます。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
### クライアントアプリケーションの作成

生成したスタブ類を使用して、JAX-WSまたはSAAJに従ったアプリケーションを作成します。

### クライアントアプリケーションの開発

- クライアントアプリケーションがIJServer上以外で動作する場合
  - javaコマンドで実行します。

- クライアントアプリケーションがIJServer上以外で動作する場合
  - appclientコマンドで実行します。

### Webサービスの実行

- クライアントアプリケーションがIJServer上以外で動作する場合
  - javaコマンドで実行します。
  - appclientコマンドで実行します。

### Webサービス開発コマンド

- 「Java EE運用ガイド」の「Webサービス開発コマンド」と参照してください。

### HTTP接続に関する設定

#### 接続先を指定する方法

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>終点URL</td>
<td>指定する方法</td>
<td>プログラム中に、スタブオブジェクトに対して以下のプロパティで設定します。</td>
<td>「Java EE運用ガイド」-「HTTP接続に関する設定」を参照してください。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### 取引のタイムアウトを指定する方法

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>接続のタイムアウトを指定する方法</td>
<td>プログラム中に、リクエストコンテキストのプロパティに設定します。</td>
<td>「Java EE運用ガイド」-「HTTP接続に関する設定」を参照してください。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### セッション管理の利用を指定する方法

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>セッション管理の利用を指定する方法</td>
<td>プログラム中に、リクエストコンテキストのプロパティに設定します。</td>
<td>「Java EE運用ガイド」-「HTTP接続に関する設定」を参照してください。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
### 指定する方法

| 対して以下のプロパティで指定します。 | 定する方法 | プロキシを経由した接続がプログラムで、スタブオブジェクト、またはシステムプロパティに対して以下
| キー名: | 通して指定します。 | のプロパティで指定します。
| javax.xml.rpc.session.maintain | キー名: | キー名:
| | | javax.xml.ws.BindingProvider.SESSION_MAINTAIN_PRO
| | | PR
| | | に依存することを推奨していません。そのため本機能の使用は推奨しません。
| | | に依存することを推奨していません。そのため本機能の使用は推奨しません。
| プロキシを経由した接続 | プロキシを経由した接続 | に依存することを推奨していません。そのため本機能の使用は推奨しません。

#### ■Webサービスクライアントログファイル

<table>
<thead>
<tr>
<th>J2EE機能名/定義名</th>
<th>J2EE定義方法</th>
<th>Java EE 6機能名/定義名</th>
<th>Java EE 6定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Webサービスクライアントログファイルの指定</td>
<td>Webサービス設定ファイルに指定します。</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>指定できません。</td>
</tr>
<tr>
<td>Webサービスクライアントログファイルの最大サイズ</td>
<td>Webサービス設定ファイルに指定します。</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>指定できません。</td>
</tr>
<tr>
<td>Webサービスクライアントログファイルの最大世代数</td>
<td>Webサービス設定ファイルに指定します。</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>指定できません。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### ■SSL通信

<table>
<thead>
<tr>
<th>J2EE機能名/定義名</th>
<th>J2EE定義方法</th>
<th>Java EE 6機能名/定義名</th>
<th>Java EE 6定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
</table>
| Webサービスクライアントで使用するSSL定義名 | Webサービス設定ファイルに指定します。 | - | - | キーストアの情報の詳細は、「J2EE運用ガイド」-「SSL」-「SSLクライアント側の設定」を参照してください。
| Webサービスクライアントで使用するキーストアの設定 | Webサービス設定ファイルに指定します。 | - | - | キーストアの情報の詳細は、「J2EE運用ガイド」-「SSL」-「SSLクライアント側の設定」を参照してください。

#### □添付ファイル

<table>
<thead>
<tr>
<th>J2EE機能名/定義名</th>
<th>J2EE定義方法</th>
<th>Java EE 6機能名/定義名</th>
<th>Java EE 6定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>添付ファイルの一時ファイル作成場所</td>
<td>添付ファイルの一時ファイル作成場所</td>
<td>-</td>
<td>システムプロパティ設定に設定されている格納先に作成されます。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
添付ファイル受信時に一時ファイルを生成せずメモリのみで扱うサイズの上限

対応サービス設定ファイルに指定します。
指定できません。1MB以上の添付ファイルは内部的に一時ファイルを生成して処理されます。

レスポンス送却時の、対応サービスアプリケーションで受信した添付ファイルデータ削除（資源解放）

対応サービス設定ファイルに指定します。
一時ファイルは添付ファイルデータのオブジェクトがGCによって回収される際やアプリケーションの終了時に削除されますが、アプリケーションが異常終了した場合、ファイルは削除されずに残ることがあります。その場合は、上記ファイルがどのプロセスからも使用されていないことを確認後、手動で削除してください。

Webサービス設定ファイルに指定します。
一時ファイルは添付ファイルデータのオブジェクトがGCによって回収される際やアプリケーションの終了時に削除されますが、アプリケーションが異常終了した場合、ファイルは削除されずに残ることがあります。その場合は、上記ファイルがどのプロセスからも使用されていないことを確認後、手動で削除してください。

WSDLでtext/plainに指定された添付ファイルのデフォルト文字コード

対応サービス設定ファイルに指定します。
指定できません。

### アプリケーションの配備/配備解除のタイムアウト時間設定

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>アプリケーションの配備/配備解除のタイムアウト時間</td>
<td>Interstage JMXサービスが使用するjavaプロセスのシステムプロパティに設定します。</td>
<td>Dcom.fujitsu.interstage.isws.deploy.wsdl.timeout=タイムアウト時間(単位:ミリ秒)</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>指定できません。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### JNDIを使用してServiceオブジェクトをlookupする方法

以下の手順でサービスを呼び出します。

1. InitialContextオブジェクトを生成します
2. InitialContextのlookupメソッドを使用し、Serviceオブジェクトを取得します
3. Serviceオブジェクトからスタブオブジェクトを取得します
4. スタブのメソッドを呼び出します

<例>

```
InitialContext ic = new InitialContext ();
StockQuoteProviderService sqs = (StockQuoteProviderService)ic.lookup("java:comp/env/service/StockQuote");
StockQuoteProvider sqp = sqs.getStockQuoteProviderPort();
```

@javax.xml.ws.WebServiceRefを使用する方法に変更します。

<例>

```
public class StockQuoteClient {
@javax.xml.ws.WebServiceRef
StockQuoteProviderService sqp;
public static void main (String[] args) {
  StockQuoteProvider sqp = sqs.getStockQuoteProviderPort();
  ...
}
```
### SOAPバインディングの指定

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>スタイル (style)・使用方法 (use)の指定</td>
<td>SOAPバインディング</td>
<td>スタイル (style)・使用方法 (use)の指定</td>
<td>-</td>
<td>スタイル (style)・使用方法 (use)の組み合わせは以下の2パターンが使用できます。</td>
</tr>
<tr>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>- styleuse {DOCLITERALWRAPPED</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
### 添付ファイル型のデータ型の指定

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>swasef型</td>
<td>iswsgen wsdlコマンドで以下を指定します。 <code>-attachmentsType swasef -t swasef</code></td>
<td>javax.activation.DataHandlerクラスを使用します。</td>
<td>@javax.xml.bind.annotation.XmlAttachmentRefアノテーションを指定します。</td>
<td>詳細は、「Java EE運用ガイド(Java EE 6編)」の「Webサービスの通信で利用できるデータ型」の「添付ファイル型」を参照してください。</td>
</tr>
<tr>
<td>apache型</td>
<td>iswsgen wsdlコマンドで以下を指定します。 <code>-attachmentsType apache -t apache</code></td>
<td>以下のクラスが使用できます。 <code>java.awt.Imageクラス</code> <code>javax.mail.internet.MimeMultipart</code> <code>javax.xml.transform.Source</code></td>
<td>[apachesoap名前空間のXMLデータ型は使用できません。他のXMLデータ型に変更してください。](詳細は、「Java EE運用ガイド(Java EE 6編)」の「Webサービスの通信で利用できるデータ型」の「添付ファイル」を参照してください。)</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 3.15 JNDI

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>名前変換機能</td>
<td>Interstage管理コンソールの名前変換機能を定義します。</td>
<td>参照名に対応する名前を定義します。</td>
<td>参照名に対応する名前に定義した参照名を物理的に名前を対応させるために、環境設定ファイルに定義できます。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>INITI context FACTORY (java.naming.factory.initial) の指定</td>
<td>アプレットは自ら呼び出し。</td>
<td>アプレットから呼び出すことができる。</td>
<td>アプレットから呼び出すことができるが、他のアプリケーションは呼び出しの対象外です。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
スタンドアロンクライアントの場合、appserv-rt.jarファイルを優先的に環境変数クラスパスに設定することでプロパティが自動設定されます。また、明示的にJNDIの環境プロパティを指定する場合には以下を指定してください。

<table>
<thead>
<tr>
<th>クライアントの認証</th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ユーザ名</td>
<td>ISS環境プロパティに指定</td>
<td></td>
<td>セキュリティコールバッケハンドラ</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>appserv-rt.jarファイルに任意のセキュリティコールバッケハンドラ</td>
</tr>
</tbody>
</table>

クライアントの認証パスワード

|  | ISS環境プロパティに指定 |  | セキュリティコールバッケハンドラ |
|  |  |  | appserv-rt.jarファイルに任意のセキュリティコールバッケハンドラ |

アプリケーション

| クライアントの | ISS環境プロパティに指定 |  | セキュリティコールバッケハンドラ |
|  |  |  | appserv-rt.jarファイルに任意のセキュリティコールバッケハンドラ |

ファイルの指定

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

クライアントの認証

|  | ISS環境プロパティに指定 |  |  |
|  |  |  |  |

JNDI環境プロパティに"FJUserID"を指定セキュリティコールバックハンドラ

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

HTTPトンネリング

|  | ISS環境プロパティに指定 |  |  |
|  |  |  |  |

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

XMLファイルの検証方法

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

分散トランザクション

制御の指定

| ISS環境プロパティに指定 |  |  |  |
|  |  |  |  |

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

サーバー環境ではアプリケーションを運用するサーバーインスタンスのネーミングサービスにアクセスします。

サーバー環境ではアプリケーションを運用するサーバーインスタンスのネーミングサービスにアクセスします。

サーバー環境で他サーバーインスタンスで運用されているEnterprise JavaBeansを呼び出す場合にはJNDIサービス設定に他サーバーインスタンスまたはリモートサーバのホスト名、IIOPリスナーのポート番号を指定します。または、deployment descriptorファイルに定義したEJB参照名に対して詳細はクライアントの認証の設定をご参照ください。
クライアント環境でアプリケーションを起動するための環境設定として、使用するORB（Object Request Broker）を指定する必要があります。ORBとして以下のプロパティを指定します。

<table>
<thead>
<tr>
<th>プロパティ名</th>
<th>プロパティ値</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>org.omg.CORBA.ORBClass</td>
<td>com.fujitsu.ObjectDirector.CORBA.ORB</td>
</tr>
<tr>
<td>org.omg.CORBA.ORBSingletonClass</td>
<td>com.fujitsu.ObjectDirector.CORBA.SingletonORB</td>
</tr>
<tr>
<td>javax.rmi.CORBA.StubClass</td>
<td>com.fujitsu.ObjectDirector.rmi.CORBA.StubDelegateImpl</td>
</tr>
<tr>
<td>javax.rmi.CORBA.UtilClass</td>
<td>com.fujitsu.ObjectDirector.rmi.CORBA.UtilDelegateImpl</td>
</tr>
<tr>
<td>javax.rmi.CORBA.PortableRemoteObjectClass</td>
<td>com.fujitsu.ObjectDirector.rmi.CORBA.PortableRemoteObjectDelegateImpl</td>
</tr>
</tbody>
</table>

環境変数の設定
サーバー環境では自動的に設定されるため不要です。

クライアント環境でアプリケーションを起動するための環境設定として、環境変数のCLASSPATHとLD_LIBRARY_PATHの設定が必要です。詳細は「J2EEユーザーズガイド(旧版互換)」を参照してください。

クライアント配布物へのクラスパスの設定
他プロセスで運用されたアプリケーションを通信で呼び出す場合、呼び出すアプリケーションを配備された時に生成されるクライアント配布物にクラスパスを設定する必要があります。

リモートインタフェースのクラスパスの設定
動的スタブにより通信に必要なクラスは動的にメモリ上に展開されるため、呼び出すアプリケーションのリモートインタフェースのみ呼び出し側のクラスパスに設定する必要があります。

### トランザクション

<table>
<thead>
<tr>
<th>職能名/定義名</th>
<th>定義方法</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### トランザクションの定義

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名/定義名</th>
<th>定義方法</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

ため指定不要です
<table>
<thead>
<tr>
<th>システムのモード</th>
<th>トランザクションログのパス</th>
<th>トランザクションログの位置</th>
<th>リソースの参加数</th>
<th>リソースの参加数</th>
<th>システムが利用するネーミングサービスのホスト名</th>
<th>データベース連携サービスの環境設定情報</th>
<th>データベース連携サービスの環境設定情報</th>
<th>データベース連携サービスの環境設定情報</th>
<th>データベース連携サービスの環境設定情報</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>トランザクションログのパス</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定の最大トランザクション数</td>
<td>-</td>
<td>データベース連携サービスの環境設定情報</td>
<td>データベース連携サービスの環境設定情報</td>
<td>データベース連携サービスの環境設定情報</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>最大トランザクション数</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定の最大トランザクション数</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定の最大トランザクション数</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>系統の多重度</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定のシステムの多重度</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定のシステムの多重度</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>インターネットへのプロセス多重度</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定のインターネットへのプロセス多重度</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定のインターネットへのプロセス多重度</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>インターネットへのスレッド多重度</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定のインターネットへのスレッド多重度</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定のインターネットへのスレッド多重度</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>リソースの参加数</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定のリソースの参加数</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定のリソースの参加数</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>システムが利用するネーミングサービスのホスト名</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定のシステムが利用するネーミングサービスのホスト名</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>管理コンソールのシステム環境設定におけるトランザクションサービス詳細設定のシステムが利用するネーミングサービスのホスト名</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>定義項目</td>
<td>ファイルにおける定義項目</td>
<td>内容</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>-----------</td>
<td>---------------------------</td>
<td>------</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ホストシステムが利用するネーミングサービスのポート番号</td>
<td>ファイルにおける定義項目</td>
<td>サーバーインスタンスと同一のプロセス上でトランザクションサービスが動作するため設定不要です。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ノード種別</td>
<td>ファイルにおける定義項目</td>
<td>サーバーインスタンスと同一のプロセス上でトランザクションサービスが動作するため設定不要です。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>トランザクションタイムアウト時間</td>
<td>ファイルにおける定義項目</td>
<td>トランザクションタイムアウト時間設定不要です。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>リソース最大トランザクション数</td>
<td>ファイルにおける定義項目</td>
<td>リソース最大トランザクション数設定不要です。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>トレースモード</td>
<td>ファイルにおける定義項目</td>
<td>トレースモード設定不要です。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>リソース定義</td>
<td>ファイルにおける定義項目</td>
<td>リソース定義設定不要です。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | ください。
|------------------|-----|-----|-----|----------------|
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | ジャパ귀機能では設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | ジャパ귀機能では設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | ジャパ귀機能では設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | ジャパ귀機能では設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | ジャパполнить機能では設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | サーバーインスタンスと同一のプロセス上でトランザクションサービスが動作するため設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | サーバーインスタンスと同一のプロセス上でトランザクションサービスが動作するため設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | サーバーインスタンスと同一のプロセス上でトランザクションサービスが動作するため設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | サーバーインスタンスと同一のプロセス上でトランザクションサービスが動作するため設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | サーバーインスタンスと同一のプロセス上でトランザクションサービスが動作するため設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | サーバーインスタンスと同一のプロセス上でトランザクションサービスが動作するため設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | サーバーインスタンスと同一のプロセス上でトランザクションサービスが動作するため設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | サーバーインスタンスと同一のプロセ스上でトランザクションサービスが動作するため設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | サーバーインスタンスと同一のプロセ스上でトランザクションサービスが動作するため設定不要です。
| マッピングコマンド | なし | なし | なし | サーバーインスタンスと同一のプロセス上でトランザクションサービスが動作するため設定不要です。
### JMS接続ファクトリ

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>JMS接続ファクトリ</td>
<td>ConnectionFactory</td>
<td>JMS接続ファクトリの作成</td>
<td>JMS接続ファクトリ</td>
<td>ConnectionFactory</td>
<td>JMS接続ファクトリの作成</td>
</tr>
<tr>
<td>TopicConnectionFactor</td>
<td>を作成</td>
<td>jmsmkfact -t</td>
<td>TopicConnectionFactor</td>
<td>を作成</td>
<td>asadmin create-jms-resource --restype javax.jms.TopicConnectionFactory</td>
</tr>
<tr>
<td>QueueConnectionFactor</td>
<td>を作成</td>
<td>jmsmkfact -q</td>
<td>QueueConnectionFactor</td>
<td>を作成</td>
<td>asadmin create-jms-resource --restype javax.jms.QueueConnectionFactory</td>
</tr>
<tr>
<td>作成する</td>
<td>クライアント識別子指定</td>
<td>クライアント識別子</td>
<td>作成する</td>
<td>クライアント識別子指定</td>
<td>クライアント識別子</td>
</tr>
<tr>
<td>作成する</td>
<td>グローバルトランザクション機能の設定</td>
<td>グローバルトランザクション機能の設定</td>
<td>作成する</td>
<td>グローバルトランザクション機能の設定</td>
<td>グローバルトランザクション機能の設定</td>
</tr>
<tr>
<td>消去</td>
<td></td>
<td></td>
<td>消去</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>一覧表示</td>
<td></td>
<td></td>
<td>一覧表示</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### Destination/JMS送信先リソース

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Destination</td>
<td>を作成</td>
<td>jmsmkdst -t</td>
<td>Destination</td>
<td>を作成</td>
<td>asadmin create-jms-resource --restype javax.jms.Topic</td>
</tr>
<tr>
<td>Destinationのタイプ指定</td>
<td></td>
<td></td>
<td>Destinationのタイプ指定</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 送信先リソース

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>送信先リソースの作成</td>
<td></td>
<td></td>
<td>送信先リソースの作成</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

```
```
<table>
<thead>
<tr>
<th>定義</th>
<th>作成</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; JMS &gt; Destination</td>
<td>JMS送信先リソースの作成</td>
<td>作成するJMS送信先リソースのタイプを指定</td>
</tr>
<tr>
<td>作成するJMS送信先リソースに関連付けるイベントチャネルのグループ名を指定</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>作成するJMS送信先リソースに関連付けるイベントチャネルのチャネル名を指定</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>作成するJMS送信先リソースに関連付ける物理格納先名を指定</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>作成するJMS送信先リソースの削除</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>一覧表示</th>
<th>一覧取得</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; JMS &gt; Destination</td>
<td>JMS送信先リソースの一覧取得</td>
<td>作成するJMS送信先リソースの一覧表示</td>
</tr>
</tbody>
</table>

---

### 永続サブスクリプション

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>永続サブスクリプションの一覧表示</td>
<td>永続サブスクリプションの一覧表示</td>
<td>永続サブスクリプションの一覧表示</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>永続サブスクリプションの削除</td>
<td>永続サブスクリプションの削除</td>
<td>永続サブスクリプションの削除</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>イベントサービス/メッセージブローカ</td>
<td>J2EE機能名/定義名</td>
<td>Java EE 6機能名/定義名</td>
<td>説明</td>
</tr>
<tr>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
</tr>
<tr>
<td>動的イベントチャネル最大起動数</td>
<td>essetcnfコマンドの-dchmaxオプションで指定</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>静的イベントチャネル最大起動数</td>
<td>essetcnfコマンドの-schmaxオプションで指定</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>エラーログファイルサイズ</td>
<td>essetcnfコマンドの-logsizeオプションで指定</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントチャネル自動起動</td>
<td>essetcnfコマンドの-autostartオプションで指定</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>ユニットの作成</td>
<td>esmkunitコマンド</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>ユニットの削除</td>
<td>esrmunitコマンド</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントサービスのセットアップ</td>
<td>esetupコマンド</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントサービスの起動</td>
<td>esstartコマンド</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントファクトリの起動</td>
<td>esstartfctryコマンド</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>ユニットの起動</td>
<td>esstartunitコマンド</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントサービスの停止</td>
<td>esstopコマンド</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
</tbody>
</table>

Java EE 6機能の場合、本コマンドに相当するコマンドは存在しません。
# イベントチャネル/物理格納先

<table>
<thead>
<tr>
<th>ソース機能名/定義名</th>
<th>ソース定義方法</th>
<th>ターゲット機能名/定義名</th>
<th>ターゲット定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>イベントチャネルグループ名</td>
<td>インターステージ管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; イベントチャネルグループ名</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>インターステージ管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; イベントチャネルグループ名で指定</td>
</tr>
<tr>
<td>タイプ</td>
<td>インターステージ管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; イベントチャネル</td>
<td>物理格納先名</td>
<td>インターステージ管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; イベントチャネル</td>
<td>インターステージ管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; イベントチャネルで指定</td>
</tr>
<tr>
<td>不揮発チャネル運用</td>
<td>インターステージ管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; イベントチャネル</td>
<td>物理格納先タイプ</td>
<td>インターステージ管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; イベントチャネル</td>
<td>インターステージ管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; イベントチャネルで指定</td>
</tr>
<tr>
<td>ユニット</td>
<td>インターステージ管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; イベントチャネル</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>インターステージ管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; イベントチャネルで指定</td>
</tr>
<tr>
<td>グローバルトランザクション</td>
<td>インターステージ管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; イベントチャネル</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>インターステージ管理コンソールのシステム &gt; リソース &gt; イベントチャネルで指定</td>
</tr>
</tbody>
</table>

なお、Java EE 6機能の場合、本定義に相当する定義は存在しません。
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>できる。</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td><strong>最大接続数</strong></td>
<td>できる。</td>
</tr>
<tr>
<td>は更新に関するプロパティ</td>
<td>できる。</td>
</tr>
<tr>
<td>esmkchnlnで指定</td>
<td>できる。</td>
</tr>
<tr>
<td>最大接続数</td>
<td>できる。</td>
</tr>
<tr>
<td>は更新に関するプロパティ</td>
<td>できる。</td>
</tr>
<tr>
<td>esmkchnlnで指定</td>
<td>できる。</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>日本語コード系</strong></td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>システム &gt; リソース &gt; JMS &gt; イベントチャネル &gt; 新規作成 &gt; 日本語コード系</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>SSL通信</strong></td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>システム &gt; リソース &gt; JMS &gt; イベントチャネル &gt; 新規作成 &gt; SSL通信</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>コネクション自動回収機能</strong></td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>システム &gt; リソース &gt; JMS &gt; イベントチャネル &gt; 新規作成 &gt; コネクション自動回収機能</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>イベントデータ待ち合わせ時間</strong></td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>システム &gt; リソース &gt; JMS &gt; イベントチャネル &gt; 環境設定 &gt; イベントデータ待ち合わせ時間</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>ローカルトランザクションのタイムアウト時間</strong></td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>システム &gt; リソース &gt; JMS &gt; イベントチャネル &gt; 環境設定 &gt; ローカルトランザクションのタイムアウト時間</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td><strong>コンシューマ未接続時のエラー復帰モード</strong></td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>システム &gt; リソース &gt; JMS &gt; イベントチャネル &gt; 環境設定 &gt; コンシューマ未接続時のエラー復帰モード</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>閉塞運用モード</td>
<td>essetcnfchnl コマンドの -blockade オプションで指定</td>
</tr>
<tr>
<td>監視蓄積データ率</td>
<td>essetcnfchnl コマンドの -threshold オプションで指定</td>
</tr>
<tr>
<td>監視再開蓄積データ率</td>
<td>essetcnfchnl コマンドの -safety オプションで指定</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントデータ自動閉塞解除率</td>
<td>essetcnfchnl コマンドの -unblock オプションで指定</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントデータ蓄積最大数</td>
<td>essetcnfchnl コマンドの -edmax オプションで指定</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントチャネルの閉塞</td>
<td>eschgblock -b on 物理格納先の一時停止</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントチャネルの閉塞解除</td>
<td>eschgblock -b off 物理格納先の再開</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントチャネルのオブジェクトリファレンスの取得</td>
<td>esgetchnlior コマンド</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントチャネルの作成</td>
<td>esmkchnl コマンド 物理格納先の作成</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントチャネルの続ける情報を表示</td>
<td>esmonitorchnl コマンド コネクションの一覧表</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントチャネルの削除</td>
<td>esrmchnl コマンド 物理格納先の削除</td>
</tr>
<tr>
<td>イベントチャネルのオブジェクトリファレンスの取得</td>
<td>essetchnlior コマンド</td>
</tr>
</tbody>
</table>
スの登録

イベントチャネルの動作環境の参照

物理格納先の詳細表示

イベントチャネルの動作環境の設定

物理格納先の更新

イベントチャネルの動作

esetcnfchnl -d 物理格納先の詳細表示

imqcmd query dstコマンド

設定

esetcnfchnl -s list 物理格納先の更新

imqcmd update dstコマンド

起動

esstartchnlコマンド

Java EE 6機能の場合、本コマンドに相当するコマンドは存在しません。

停止

esstopchnlコマンド

Java EE 6機能の場合、本コマンドに相当するコマンドは存在しません。

### JavaMail

<table>
<thead>
<tr>
<th>サブコマンド</th>
<th>定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>リソース名</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>メールの発信者</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ログインID</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>メールサバ/ポート番号</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

使用可能なプロパティのリストについては、JavaMail API マニュアルを参照してください。
<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>機能名/定義名</td>
<td>コネクションプール/コネクションプーリング</td>
</tr>
<tr>
<td>定義方法</td>
<td>接続プール/接続プーリング</td>
</tr>
<tr>
<td>データソース</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>データベースタイプ</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>クライアントバージョン</td>
<td>-</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### コネクションプール/コネクションプーリング

定義方法: コネクションプール/コネクションプーリング

### データソース

定義方法: コネクションプール/コネクションプーリング

### データベースタイプ

定義方法: コネクションプール/コネクションプーリング

### クライアントバージョン

定義方法: コネクションプール/コネクションプーリング

使用するデータソースクラスが異なるために指定する定義項目です。機能の場合には、使用するデータベースのバージョンに合わせて指定するデータソースクラスを編集してください。
<table>
<thead>
<tr>
<th>バージョン</th>
<th>データソースの種類</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>インターステージ管理コンソールの isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルにおける &lt;Jdbc&gt;の &lt;Symfoware&gt;、&lt;Oracle&gt;、&lt;Sqlserver&gt;、&lt;Postgresql&gt;タグ配下の &lt;DatasourceKind&gt;タグの値</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>データソースクラス名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>インターステージ管理コンソールの isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルにおける &lt;Jdbc&gt;の &lt;Symfoware&gt;、&lt;Oracle&gt;、&lt;Sqlserver&gt;、&lt;Postgresql&gt;タグ配下の &lt;User&gt;タグの値</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>パスワード</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ドライバタイプ/ネットワークプロトコル</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>リソースタイプ</th>
<th>データソースクラス名</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>インターステージ管理コンソールの isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルにおける &lt;Jdbc&gt;の &lt;Symfoware&gt;、&lt;Oracle&gt;、&lt;Sqlserver&gt;、&lt;Postgresql&gt;タグ配下の &lt;DatasourceKind&gt;タグの値</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ユーザID</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>パスワード</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ドライバタイプ/ネットワークプロトコル</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>プーリング</th>
<th>リソースタイプ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>インターステージ管理コンソールの isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルにおける &lt;Jdbc&gt;の &lt;Symfoware&gt;、&lt;Oracle&gt;、&lt;Sqlserver&gt;、&lt;Postgresql&gt;タグ配下の &lt;DatasourceKind&gt;タグの値</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ユーザID</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>パスワード</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ドライバタイプ/ネットワークプロトコル</td>
</tr>
</tbody>
</table>

Java EE 6機能を使用する場合には、各 JDBCドライバが提供するデータソースのデータソースクラス名と、そのデータソースクラスが実装するインタフェースをリソースタイプとして指定します。各 JDBCドライバが提供するデータソースクラスについては、使用する JDBCドライバのマニュアルで確認してください。また、Java EE 6機能ではデフォルトで必ずリソース名で接続プーリングします。リソース名の接続プーリングを使用したい場合には、プーリングの設定を無効にしてください。

RACを使用する場合

<table>
<thead>
<tr>
<th>ユーザID</th>
<th>パスワード</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>インターステージ管理コンソールの isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルにおける &lt;Jdbc&gt;の &lt;Symfoware&gt;、&lt;Oracle&gt;、&lt;Sqlserver&gt;、&lt;Postgresql&gt;タグ配下の &lt;User&gt;タグの値</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>パスワード</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>ドライバタイプ/ネットワークプロトコル</td>
</tr>
</tbody>
</table>

Java EE 6機能ではOracleのRAC連携はサポートしていません。

追加プロパティで "user"を指定する

追加プロパティで "password"を指定する

追加プロパティで "driverType"と "netProtocol"を指定する

追加プロパティで "pooling"を指定する
<table>
<thead>
<tr>
<th>タグの値</th>
<th>有効なデフォルト値</th>
<th>プロトコル</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールの JDBCデータソース名:環境設定における &quot;ドライバタイプ/ネットワークプロトコル&quot;</td>
<td></td>
<td>追加プロパティで &quot;networkProtocol&quot; を指定する</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールの JDBCデータソース名:環境設定における &quot;プロトコル&quot;</td>
<td></td>
<td>追加プロパティで &quot;networkProtocol&quot; を指定する</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールの JDBCデータソース名:環境設定における &quot;接続ホスト名&quot;</td>
<td></td>
<td>追加プロパティで &quot;serverName&quot; を指定する</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールの JDBCデータソース名:環境設定における &quot;ネーミングサービスのホスト名&quot;</td>
<td></td>
<td>ネーミングサービスのポート番号を指定する</td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールの JDBCデータソース名:環境設定における &quot;接続ポート番号&quot;</td>
<td></td>
<td>ネーミングサービスのポート番号を指定する</td>
</tr>
</tbody>
</table>

**ネーミングサービスのポート番号**

J2EE機能でSymfowareのコネクションプーリングを使用する場合には、SymfowareのJDBCドライバが提供するJNDIサービスプロバイダのネーミングサービスが存在するホスト名を指定します。

Java EE 6機能ではSymfowareのコネクションプーリングは使用できません。データソースクラス名に "com.fujitsu.symfoware.jdbc2.SYMConnectionPoolDataSource" を指定して、Interstage側で接続プーリングするように設定してください。
<table>
<thead>
<tr>
<th>インターステージ管理コンソールのJDBCデータソース名:環境設定における&quot;ネーミングサービスのポート番号&quot;</th>
<th>追加プロパティで&quot;追加プロパティを指定する&quot;</th>
<th>Interstage管理コンソールのJDBCデータソース名:環境設定における&quot;ネーミングサービスのポート番号&quot;を指定して、Interstage側で接続プーリングするように設定してください。</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>IDLEコマンドで指定するリソース定義ファイルにおける&quot;追加プロパティ&quot;の&lt;DatabaseNamer&gt;タグ配下の&quot;DatabaseNamer&quot;タグの値</td>
<td>Interstage管理コンソールのJDBCデータソース名:環境設定における&quot;データベース名&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのJDBCデータソース名:環境設定における&quot;データベース名&quot;追加プロパティで&quot;databaseName&quot;を指定するasadminコマンドで操作できる定義項目の&quot;resources.jdbc-connection-pool.&quot;${pool-name}.property.${PropertyName}</td>
</tr>
<tr>
<td>データベース名 Самар/データベース名 isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルにおける&quot;データベース名&quot;サマ/データベース名が定義ファイルにおける&lt;Jdbc&gt;&lt;Oracle&gt;&lt;DatabaseNamer&gt;タグ配下の&quot;databaseName&quot;タグの値</td>
<td>追加プロパティで&quot;databaseName&quot;を指定する</td>
<td>Interstage管理コンソールのJDBCデータソース名:環境設定における&quot;データベース名&quot;追加プロパティで&quot;databaseName&quot;を指定するasadminコマンドで操作できる定義項目の&quot;resources.jdbc-connection-pool.&quot;${pool-name}.property.${PropertyName}</td>
</tr>
<tr>
<td>サーバ URL isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルの&quot;追加プロパティ&quot;タグの値</td>
<td>追加プロパティで&quot;URL&quot;を指定する</td>
<td>Interstage管理コンソールのJDBCデータソース名:環境設定における&quot;データベース名&quot;追加プロパティで&quot;URL&quot;を指定するasadminコマンドで操作できる定義項目の&quot;resources.jdbc-connection-pool.&quot;${pool-name}.property.${PropertyName}</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| データソースクラス名 isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルの"データソースクラス名"タグの値 | Interstage管理コンソールのJDBCデータソース名:環境設定における"データソースクラス名" | Interstage管理コンソールのJDBCデータソース名:環境設定における"データソースクラス名"追加プロパティで"dataSourceClassName"を指定するasadminコマンドで操作できる定義項目の"resources.jdbc-connection-pool."${pool-name}.property.datasource-classname
<table>
<thead>
<tr>
<th>クラス名</th>
<th>オプション</th>
<th>メソッド</th>
<th>許容オプション</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ログライター</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>オプションはありません。</td>
</tr>
<tr>
<td>接続プロパティ</td>
<td>追加プロパティで指定するリソース定義ファイルのタグの値</td>
<td>追加プロパティで指定するリソース定義ファイルのタグの値</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>暗黙的接続キャッシュのプロパティ</td>
<td>追加プロパティで指定するリソース定義ファイルのタグの値</td>
<td>追加プロパティで指定するリソース定義ファイルのタグの値</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>その他データソース・プロパティ情報</td>
<td>追加プロパティでその他のプロパティ情報を指定する</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>監査ログへの接続情報出力</td>
<td>監査ログへのアクセス情報出力</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>デフォルトスキーマ名</td>
<td>追加プロパティで指定するリソース定義ファイルのタグの値</td>
<td>追加プロパティで指定するリソース定義ファイルのタグの値</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>ソース名:環境設定における&quot;監査ログへのWebサーバ接続情報出力&quot;</td>
<td>その他パラメタ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>追加プロパティで&quot;SYMOption&quot;を指定し、&quot;ctuneparam&quot;オプションを指定する</td>
<td>追加プロパティで操作できる定義項目の&quot;SYMOption&quot;を指定する</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールのデータソース名:環境設定における&quot;デフォルトスキャーマ名&quot;</td>
<td>Interstage管理コンソールのデータソース名:環境設定における&quot;デフォルトスキャーマ名&quot;</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他パラメタを使用する</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>クラス名</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>データソース名</td>
<td>-</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

File System Service Providerを使用する

isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルの"SYMOption"タグの値

Interstage管理コンソールのデータソース名:環境設定における"デフォルトスキャーマ名"

クラス名

isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルにおける"SYMOption"タグ配下の"DataSourceProviderClass"タグの値

Interstage管理コンソールのデータソース名:環境設定における"クラス名"

PROVIDER_URL

isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルにおける"ProviderUrl"タグの値

Interstage管理コンソールのデータソース名:環境設定における"PROVIDER_URL"

データソース名

isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルにおける"BindName"タグの値

Interstage管理コンソールのデータソース名:環境設定における"データソース名"
### コネクタ

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名/定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>機能名/定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>説明</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>モジュール名</td>
<td>コネクタの管理画面で指定</td>
<td>アプリケーション名</td>
<td>コネクタのサブコマンドの指定</td>
<td>モジュール名とコネクタ名で使用できる文字が違います。詳細はそれぞれを参照してください。</td>
</tr>
<tr>
<td>定義名</td>
<td>コネクタの定義ファイルのタグの値</td>
<td>コネクタリソースの定義名</td>
<td>コネクタリソースのサブコマンドで指定</td>
<td>モジュール名とコネクタ名で使用できる文字が違います。詳細はそれぞれを参照してください。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### データソースを登録する

**データソースの定義ファイルに以下のタグ配下の値を設定する**

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

データソース名: 環境設定における“データソースを登録する”属性

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

リソースログフォルダ

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

Java EE 6機能ではリソースログフォルダに関する定義項目はありません。異常が発生した場合の情報についてはserver.logファイルに出力されます。

作成後に接続テストを行う

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

作成時に接続テストを行う

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

Java EE 6機能ではリソースログフォルダに関する定義項目はありません。異常が発生した場合の情報についてはserver.logファイルに出力されます。

### コネクタ

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名/定義名</th>
<th>定義方法</th>
<th>機能名/定義名</th>
<th>定義方法</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>モジュール名</td>
<td>コネクタの管理画面で指定</td>
<td>アプリケーション名</td>
<td>コネクタのサブコマンドの指定</td>
</tr>
<tr>
<td>定義名</td>
<td>コネクタの定義ファイルのタグの値</td>
<td>コネクタリソースの定義名</td>
<td>コネクタリソースのサブコマンドで指定</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### コネクタリソースの定義ファイル

**データソースを登録する**

**データソースの定義ファイルに以下のタグ配下の値を設定する**

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルの設定

Java EE 6機能ではリソースログフォルダに関する定義項目はありません。異常が発生した場合の情報についてはserver.logファイルに出力されます。
### ユーザID
- マネージメントコントロールのリソースアダプタ名: 環境設定における"定義名"
- コネクタ接続プールの追加プロパティに"UserName"または"User"を指定可能なリソースアダプタの場合には、このプロパティの値
- isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルの<Connector><User>タグの値
- コネクタ接続プールの追加プロパティに"UserName"または"User"を指定可能なリソースアダプタの場合には、このプロパティの値

### パスワード
- マネージメントコントロールのリソースアダプタ名: 環境設定における"定義名"
- コネクタ接続プールの追加プロパティに"Password"を指定可能なリソースアダプタの場合には、このプロパティの値
- isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルの<Connector><Password>タグの値
- コネクタ接続プールの追加プロパティに"Password"を指定可能なリソースアダプタの場合には、このプロパティの値

### プロパティ情報
- マネージメントコントロールのリソースアダプタ名: 環境設定における"定義名"
- コネクタ接続プールの追加プロパティに"resources.connector-connection-pool."{PropertyName}"を指定可能なリソースアダプタの場合には、このプロパティの値
- isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルの<Connector><ConfigProperties>タグの値
- コネクタ接続プールの追加プロパティに"resources.connector-connection-pool."{PropertyName}"を指定可能なリソースアダプタの場合には、このプロパティの値

### グローバルトランザクションの利用
- マネージメントコントロールのリソースアダプタ名: 環境設定における"定義名"
- コネクタ接続プールのトランザクションサポートに"resources.connector-connection-pool."transacton-support"を指定可能なリソースアダプタの場合には、このプロパティの値
- isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルの<Connector><ConfigProperties>タグの値
- コネクタ接続プールのトランザクションサポートに"resources.connector-connection-pool."transacton-support"を指定可能なリソースアダプタの場合には、このプロパティの値

### グローバルトランザクションの詳細設定
- データベース連携サービスの環境定義におけるリソース定義ファイルのlogfileDir設定
- -
- isj2eeadminコマンドで指定するリソース定義ファイルのlogfileDir設定

### 起動/停止の実行クラス

<table>
<thead>
<tr>
<th>機能名</th>
<th>定義方法</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>名前</td>
<td>名前定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>名前</td>
<td>名前定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>名前</td>
<td>名前定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>名前</td>
<td>名前定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>名前</td>
<td>名前定義ファイルの以下のタグで指定します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 説明
- サービスのオペレーターに定義名を指定します。
<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
<th>例</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>実行するクラス名</td>
<td>インターステージ管理コンソールの実行クラス名を指定します。</td>
<td>名前</td>
</tr>
<tr>
<td>実行順</td>
<td>インターステージ管理コンソールの実行順を指定します。</td>
<td>読み込み順序で指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>引数</td>
<td>インターステージ管理コンソールの引数を指定します。</td>
<td>プロパティで指定します。</td>
</tr>
<tr>
<td>例外発生時のワークユーティット起動</td>
<td>インターステージ管理コンソールの例外発生時のワークユーティット起動を指定します。</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>ワークユーティット多重時の呼出し</td>
<td>インターステージ管理コンソールのワークユーティット多重時の呼出しを指定します。</td>
<td>-</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注）停止時実行クラスの場合は、クラス名をShutdownClassに読み替えてください。

注）Java EE 6のライフサイクルモジュールでは、プロパティを利用して引数を受渡します。

注）Java EE 6では、例外発生時の動作を指定することはできません。

注）Java EEでは、複数サーバーインスタンスが定義されたクラスターにおいて、必ずサーバーインスタンスごとにライフサイクルモジュールが実行されます。
クラスを実行するコンテナ
クラスを実行するコンテナは、IJServer定義ファイルの以下のようにタグで指定します。

停止時実行クラスの場合は、<StartupClass>を<ShutdownClass>に読み替えてください。

Java EE 6では、WebアプリケーションとEJBアプリケーションを別JavaVMで運用する形態のIJServerタスクを作成することはできないため、クラスを実行するコンテナを指定する必要はありません。

### ログ

<table>
<thead>
<tr>
<th>ロールオーバのタイプ</th>
<th>ロールオーバのサイズ</th>
<th>ロールオーバの開始时刻 (単位:時)</th>
<th>ロールオーバする繰り返しが関与 (単位:時間)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Interstage管理コンソールのIJServerワークユニットのログ定義画面で指定</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServerワークユニットのログ定義画面で指定</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServerワークユニットのログ定義画面で指定</td>
<td>Interstage管理コンソールのIJServerワークユニットのログ定義画面で指定</td>
</tr>
</tbody>
</table>

ログサイズは、以下の定義項目を指定します。

- **PCMIサービスの定義項目**
- **HTTPサービスの定義項目**
- **ロガーの定義項目**

ログ収集時間は、以下の定義項目を指定します。

- **PCMIサービスの定義項目**
- **HTTPサービスの定義項目**
- **ロガーの定義項目**

ロールオーバの繰り返し間隔 (単位:時間)は、以下の定義項目を指定します。

- **PCMIサービスの定義項目**
- **HTTPサービスの定義項目**
- **ロガーの定義項目**
<table>
<thead>
<tr>
<th>値</th>
<th></th>
<th></th>
<th>ローテーションします。</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>インターステージ管理コンソールのIJServerワークユニットのログ定義画面で指定</td>
<td>世代数</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ログファイルを保管する世代数</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>ログファイルを保管する世代数</th>
<th>世代数</th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>インターステージ管理コンソールのIJServerサブコマンドの定義ファイルの&lt;IJServer&gt;&lt;Log&gt;&lt;HistorySize&gt;タグの値</td>
<td>インターステージ管理コンソールのIJServerワークユニットのログ定義画面で指定</td>
<td>世代数</td>
<td>ローテーションします。</td>
</tr>
<tr>
<td>${clusterName_instanceName_configName}.http-service.isjee-trace-log.max-history-files</td>
<td>com.sun.enterprise.server.logging.GFFileHandler.maxHistoryFiles</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>